

あか牛

No.70



岩手県川井村青松あか牛牧場

(撮影 内館勝則氏)

1998.1

社団法人 日本あか牛登録協会

肉用牛統計

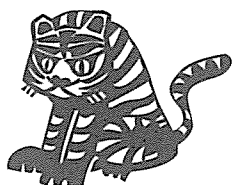
資料：（平成9. 2. 1現在 農林水産省統計情報部）

	飼養戸数	対前年比	飼	養	頭	数	一戸当り	飼養頭数
				内（肉用種	内（乳用種		頭	対前年比
全 国	142,800	92.2	2,852,000	1,779,000	1,072,000	20.0	98.3	
北海道	3,920	93.8	412,300	131,000	281,200	105.2	98.4	
青 森	1,860	93.0	58,300	29,700	28,600	31.3	98.1	
岩 手	16,700	91.8	139,300	113,000	26,300	8.3	96.4	
宮 城	10,800	90.8	107,000	85,200	21,800	9.9	95.4	
秋 田	3,030	93.8	35,000	29,200	5,840	11.6	88.4	
山 形	2,140	85.6	43,200	30,200	13,000	20.2	91.7	
福 島	9,400	91.3	95,300	67,300	28,000	10.1	96.6	
茨 城	1,930	88.9	63,000	35,100	27,900	32.6	100.2	
栃 木	2,420	92.0	105,200	44,500	60,700	43.5	100.5	
群 馬	1,360	92.5	69,400	22,400	47,000	51.0	101.5	
埼 玉	300	96.8	25,700	5,150	20,500	85.7	100.4	
千 葉	640	92.8	45,200	14,800	30,400	70.6	96.8	
東 京	60	85.7	2,140	740	1,410	35.7	93.0	
神 奈 川	230	85.2	7,010	2,520	4,490	30.5	98.6	
新 潟	760	89.4	20,400	8,020	12,400	26.8	97.6	
富 山	100	90.9	6,350	2,530	3,820	63.5	93.5	
石 川	140	87.5	5,110	1,690	3,410	36.5	95.5	
福 山	100	90.9	5,560	2,390	3,170	55.6	102.6	
山 梨	210	95.5	11,100	4,510	6,590	52.9	100.9	
長 野	1,670	89.3	44,500	25,600	18,900	26.6	95.1	
岐 阜	1,260	94.0	39,500	29,600	9,920	31.3	97.5	
静 岡	490	90.7	36,600	7,690	28,900	74.7	102.2	
愛 知	710	93.4	61,000	14,000	47,100	85.9	101.0	
三 重	360	94.7	30,300	20,500	9,800	84.2	99.0	
滋 賀	180	94.7	17,700	8,930	8,770	98.3	94.1	
京 都	280	90.3	8,700	6,910	1,800	31.1	97.9	
大 阪	50	71.4	2,900	1,600	1,340	58.8	78.4	
兵 庫	4,270	94.3	70,500	52,200	18,300	16.5	98.7	
奈 良	90	90.0	4,410	2,390	2,020	49.0	98.0	
和 歌 山	160	94.1	6,130	2,570	3,560	38.3	91.1	
鳥 取	1,360	91.9	25,400	13,300	12,100	18.7	96.9	
島 根	4,350	87.5	37,500	29,300	8,200	8.6	93.3	
岡 山	1,810	88.7	36,000	16,400	19,600	19.9	100.3	
広 島	2,280	89.8	32,800	18,600	14,100	14.4	100.9	
山 口	1,370	92.6	20,800	16,100	4,600	15.2	99.0	
徳 島	760	84.4	35,900	11,000	24,800	47.2	94.5	
香 川	720	86.7	25,300	11,900	13,400	35.1	92.7	
愛 媛	680	89.5	22,400	11,000	11,400	32.9	92.9	
高 知	580	87.9	8,120	6,450	1,670	14.0	93.5	
福 岡	350	97.2	33,900	12,300	21,600	96.9	99.4	
佐 賀	1,690	93.9	63,100	53,700	9,360	37.3	98.4	
長 崎	7,360	94.4	91,200	74,600	16,600	12.4	98.9	
熊 本	6,820	93.4	140,800	84,500	56,400	20.6	100.1	
大 分	4,650	93.8	68,600	53,200	15,400	14.8	96.8	
宮 崎	16,100	92.0	242,300	212,600	29,700	15.0	98.5	
鹿 児 島	22,700	94.2	319,700	285,100	34,600	14.1	100.5	
沖 縄	3,680	96.8	69,100	67,500	1,580	18.8	105.3	

注： 肉用種とは、乳用種を除くすべての肉用牛をいう。

あか牛

(第 7 0 号)



1998・1

目 次

- 肉用牛を巡る新局面に対応して 会長 續 省三 2
- 肉用牛改良・生産組合活動実態
 ・発表会を聞いて 九州大学名誉教授 古賀 脩 4
- 全国研究会意見発表会内容
 - ・熊本型放牧畜産事業に参加して(牛から教えられた連帯感) 熊本県菊鹿町 富田 聖輝 8
 - ・繁殖部門と肥育部門の情報交換による
 優良牛の作出を目指して 熊本県泗水町 坂本咲栄樹 11
 - ・百姓は先祖を敬い家族相和し牛を飼え 長崎県加津佐町 吉田 敦 17
 - ・私の提言するあか牛振興中長期計画構想 岩手県川井村 佐々木 博 23
 - ・私の肥育素牛生産 北海道池田町 松本 智章 29
- 会報 35
- 育種高等登録一覧 53
- 子牛市況 65

肉用牛を巡る新局面に対応して

会長 續 省 三

昨年は、行財政改革論議が進み、一応の決着をみたところですが、経済不況は長期化し大型の銀行や証券会社の経営不振や倒産など先行不安が増大する暗い世相が続きました。

このような経済状況の中で、畜産については、年初の台湾における豚の口蹄疫の侵入が心配されたものの、全般的に順調に推移しました。特に、自由化以来、輸入牛肉の価格攻勢に悩まされてきましたが、国産牛肉の販売は好調に推移しており、肉用牛の生産に新しい局面が展開してきたことを窺わせます。

一昨年の英国における狂牛病発生や、病原性大腸菌O157発生によって、消費者は急速に安全性の高い国産の牛肉に嗜好が向かいました。環境保全や安全性追求の消費者の高まりは、しっかりと根付いたものとなっています。販売者側も、原産を表示したり、生産県名や牛肉の銘柄をアピールするようになってきました。

日本経済のバブル崩壊以来、高級牛肉が敬遠され、中規格牛肉の需要が増大したため、格付規格の3クラスの価格が上昇し、3クラスが中心のあか牛にとっては、近年にない恵まれた追い風になりました。

また、昨年は全国的に米が豊作となりましたが、新食糧法の中で政府在庫が増大し、米価が下落する事態となりました。これに対応して転作を拡大せざるを得ない状態で、平成10年から水田麦、大豆、飼料作物の生産振興緊急対策が実施されます。飼料作物の生産は、すなわち大家畜畜産の経営安定と振興であり、肉用牛の生産拡大に対して、大きな期待がかかっています。

さらに、昭和35年から続いた農業基本法を見なおすことになり、新農業基本法制定に向け政府の食料、農業、農村基本問題調査会が論議を進めています。昨年末に中間報告がまとめられましたが、食料自給率の目標設定、株式会社の農地取得、中山間地域への直接所得補償などが先送りされ、本年夏には最終答申が出ることになっています。いずれにしても、牛肉の国内自給率の向上は重要な柱でありますし、中山間地の農業の継続的な維持向上を図るためには、肉用牛を中心に置かなければなりません。

以上のような農業生産の環境や、牛肉消費流通の状況は、肉用牛生産にとって新しい局面であり、肉用牛生産者として対応を考えなければなりません。

しかしながら、肉用牛の生産は飼養農家戸数の減少等により、なお減少傾向にあります。あか牛

については、熊本県をはじめ関係各県や農業・畜産団体の懸命な努力により、減り止った状況にあります。繁殖農家が3～5頭を飼っているところから、さらに多頭化して経営部門の一つにもっていかねばなりません。最近の優良事例では、繁殖雌牛を30頭以上も飼養して高収益を上げている農家や、肥育牛と併せて繁殖牛を飼養する一貫経営もみられるようになってまいりました。また、このような繁殖農家の経営効率を高めるため、共同哺育所や、共同堆厩肥舎を設置して支援する農協も各地に出てきました。

あか牛は溫和で多頭飼養に向いており、飼料効率が高く、草地や水田裏の牧草畑での放牧飼養に適していますから、中山間地での土地利用を考えた戦略部門として振興を図るべきでしょう。

あか牛の肉質向上については、優良種雄牛の精液使用によって、全般的に水準が高まり、子牛価格の引上げがみられましたが、なお一層の肉質改善、とくに低規格牛を出さないという斉一化が望まれます。

昨年の大ニュースであった英国のクローン羊の作出手法を使って、農水省畜産試験場では牛の耳の細胞でクローン牛を妊娠させることに成功しております。あか牛についても、光重ETのクローン牛生産の研究が着手されましたので、数年内に優良種雄牛の大量育成が可能となり、肉質の飛躍的な向上が期待できると考えます。

あか牛の登録事業は、これら優良種雄牛を組合せて、肉質向上を促進する基礎となるものでありますから、会員の皆様の一層のご協力を得て、推進して参りたいと思います。



肉用牛改良・生産組合活動 実態発表会を聞いて

九州大学名誉教授 古賀 脩
(中央審査委員長)

はじめに

牛肉の輸入自由化以前には、年間3万頭を越えていたあか牛の子牛登記頭数も、現在は2万頭以下にまで減少し、あか牛にとって厳しい状況が依然として続いている。しかし一方では、積極的な経営努力や活潑なグループ活動によって、飼養頭数が着実に増加している農家ないし地域も少なくない。これらの経営や活動の状況を聞き、意見を交換し、自らの経営の参考とすることは、今後、増頭を図る上で非常に有意義であると考えられる。このような視点から、全国のあか牛関係者約200名の参集を得て、肉用牛改良・生産組合活動実態発表会が熊本市において開催された。

筆者は助言者の一人としてこの発表会に参加する機会を得たので、以下事例ごとに経営または活動の特長と感想を簡単に述べてみたい。

富田聖輝氏（熊本県菊鹿町）

菊鹿町は熊本県の北端に位置する山あいの町で、農業は水稲と畜産、野菜、タバコ、林産物等との複合で営まれている。富田氏も水稲、タバコ、小麦等の栽培に加えて、繁殖牛12頭を飼育している。労働力は夫婦2人で繁忙期には不足気味となるため、経営規模を縮小することも考慮中であったところ、新しく県畜協の事業として預託放牧が開始されたので、これを利用して5頭を放牧することにした。この放牧制度は熊本型放牧畜産事業と呼ばれており、阿蘇の牧野に平坦地域の牛を放牧することによって、預託側からは飼育コストを軽減し飼養規模を拡大することが可能となり、受託側では牧野の活用、保全と併せて景観維持の効果も期待できるとして企画されたもので、実際に放牧によって飼育管理費が大幅に節減されたという平成8年度の試算結果も明らかにされている。

発表では富田氏が放牧時に体験した牛同士がお互いに助け合うという牛群の行動に接した時の感動を中心に、放牧に対する期待と不安、今後の計画などについて述べられたが、全体を通して牛に対するこまやかな愛情がうかがわれ、参加者の共感を得ていた。今後ともこの放牧制度を活用しながら経営の効率化を図り、増頭にまでつながることを期待したい。なお余談ながら、ここで紹介された脚を痛めた牛が、発表会の翌日に行われた県共進会の経産牛の部で名誉賞首席の栄に輝いた。これも日常の愛情をこめた管理の積み重ねによるものであろう。

近年、飼育戸数の減少、経営者の高齢化などによって放牧慣行が衰退し、牧野が遊休化している例が各地にみられる。一方では平坦地の繁殖経営では、粗飼料が不足しがちで牛の運動量も

十分でない場合が多い。阿蘇と平坦地との共存を図ろうとするこの事業が定着し発展することを期待しているが、そのためにはまず、衛生管理を中心とした放牧技術の指導普及とともに、農家からの放牧に対する強い意欲が前提となろう。

坂本咲栄樹氏（熊本県泗水町）

菊池地域は熊本県下でも主要な畜産地帯であり、肉用牛飼育頭数は県全体の約31%を占めている。坂本氏が所属する菊友会は、昭和63年に繁殖農家の後継者10名で、飼育管理技術の向上や他の地域の後継者との交流を目的として発足したが、現在は肉用牛の改良を目的とした組織へと変容している。現在このグループには一貫経営や肥育経営の農家も参加しており、グループ内の繁殖農家で生産された素牛を優先的に提供され肥育することによって、枝肉情報を的確にフィードバックすることが可能となっている。これはこのグループの大きな特長であり、繁殖牛の改良に有効に機能していると考えられる。また毎月定例の検討会を開催し子牛の出荷成績や交配計画などについて意見を交わし、随時お互いの畜舎を巡回して環境美化に努めたり共同で畜舎の消毒を実施するなど、会員相互の向上心、競争心を刺激すると同時に結束を強化することが心掛けられている。さらにこれらの活動の中で婦人の役割を重視している点も、グループを円滑に運営するための支えとなっている。

今後の目標として、基本的な飼育管理技術の徹底による1年1産の実現、経営分析の結果に基づく経営の改善、水田放牧による低コスト生産、ゆとりある経営を可能にするためのヘルパー制の導入等が考えられているが、いずれもぜひ達成して欲しい事項である。

このグループでは、若い人たちがいわゆる長老に気がねすることなく自由に発言し、共通の理念の下に結集して活潑な活動を展開し、お互いに切磋合っている。このようにして各自の経営を充実させ拡大していくことが、ひいては地域全体の活性化をもたらす、あか牛の生産振興と結びつくことになるものと期待される。

吉田 敦氏（長崎県加津佐町）

加津佐町は島原半島の南西部に位置し、ばれいしょの産地として知られている。吉田氏も水稲の他に、ばれいしょ、トマト等を栽培し、繁殖牛10頭を飼育する複合経営を営んでいる。この経営では、昭和54年に野菜づくりのための堆肥が目的で牛1頭導入したことから牛の飼育が始まり、その後、ばれいしょ、玉ねぎ、きゅうり、いちご、トマトと園芸作物は変遷を重ねたが、いずれも堆肥の多給により良質の作物を生産することができ、作物の収益が高まるとともに牛の頭数も徐々に増加していった。またそれに伴って、牛舎、サイロ、乾草貯蔵庫等の建設が進み、飼料作物の作付面積も拡大し、サイレージ、乾草を含む粗飼料の給与体系が整備されていった。このように、この経営の特長は無理のない繁殖牛部門の拡大と園芸作物の収益の増加とが緊密に結合し、経営全体の安定がもたらされていることである。

吉田氏は現在、傾斜地で条件の悪い水田や未利用の畑地を利用して牛を放牧する移動放牧を計画中であり、この放牧によって、牛の健康を増進して繁殖成績を高め、低コスト化による増頭の可能性を考えている。牛を飼って20年、後継者もすでに経営に参加されており、経営は当初の苦境を越えて軌道に乗り、時間的にも余裕が感じられる。氏の主張のように、繁殖経営では短期的な収益だけではなく、育てやすく飼いやすいという能力性質等をも加味した総合的な視点からの評価が必要であろう。

今後はさらに、増頭と同時に保留牛の能力を質的に高めることを心掛けながら、経験と意欲によって立地条件に適合した経営を一層発展させられるよう願っている。

佐々木 博氏（岩手県川井村）

川井村は日本短角種の産地としての長い伝統を持っている。この村に地域に適した収益性の高い品種として、あか牛が導入されて6年目を迎えた。飼養頭数は当初の16頭から106頭へと順調に増加し、生産子牛は平成9年度中には80頭以上が出荷される予定であり、価格も期待どおりの成績が得られている。この間の組合員の懸命な努力によって、岩手県肉用牛群整備増殖方針に褐毛和種が奨励品種として認定され、家畜導入資金を活用することが可能となったので、今後導入頭数が大きく増加することが期待される。肥育は現在はまだ数頭にしか過ぎないが、川井村と近隣自治体との共同出資の第三セクターとして肉牛振興公社が設立され、その業務の一つとしてあか牛の肥育実証展示が計画されており、肥育農家の育成という組合の目標が実現される見通しである。地域内一貫生産の体制が確立されれば産肉成績の的確な情報を入手することが容易となり、繁殖雌牛の選抜がより正確になることが期待される。このことはまた優良雌子牛の自家保留の割合を高めることにもつながるであろう。

以上のように、あか牛導入後の経過は順調に推移してきており、現在は5年の試行期間を経て本格的な発展期にさしかかっている段階とみることができよう。したがって導入10年次に繁殖牛200頭以上という目標も決して過大ではなく、十分に達成が可能と考えられる。

今後はあか牛の飼養技術に習熟し、豊富な草資源を活用した低コスト生産に努めるとともに、現在行われているまき牛主体の繁殖から、できるだけ人工授精による繁殖へと移行し、計画的な交配によって改良の促進を図ることが必要であろう。将来の展望として、川井村を中心とした周辺地域が、子牛市場を開設できる程の飼養頭数を確保し、名実ともに揃った東北地方での有力なあか牛の産地として発展することを期待したい。

松本智章氏（北海道池田町）

池田町は十勝平野のほぼ中央に位置し、ワインと牛肉の町として全国的に有名である。あか牛の飼養農家数は48戸（繁殖経営36戸、一貫経営12戸）で、繁殖牛1,320頭、肥育牛480頭

と規模の大きい経営が行われている。

松本氏は畑作地 19ha のほか、採草地 5ha、放牧地 80ha（7 人共有）と十分な粗飼料を基盤にして、35 頭の繁殖牛を飼養している。平成 5 年まではまき牛主体であった繁殖を人工授精に切り替えた結果、子牛の資質が向上し収益性も高まるという好成績が得られている。繁殖成績は平均空胎日数 69 日と 1 年 1 産を達成しており、繁殖雌牛には濃厚飼料をほとんど給与せず、粗飼料を中心とした飼養によって飼料費を極力抑制している。また日常の管理では牛を十分に観察し、健康状態の把握や発情の確実な発見など、牛との濃密な接触を心掛けており、「当たり前のことを当たり前」という基本に忠実で丁寧な管理がモットーである。

今後は計画交配によって優秀な自家保留牛を作出し、導入牛とあわせて 50 頭飼養を目標としているが、飼養規模を拡大しても現在どおりの基本を守り続けていくことが大切であろう。また繁殖牛群の整備については、単に個々の農家の努力だけでなく、地域またはグループが一体となって取り組む体制を整えることが効果的である。町内には一貫経営の農家があるほか、肥育センター、町営牧場などが設置されているので、販売子牛の肥育情報を分析し雌牛の能力評価を厳密に行うとともに、優良種雄牛の選定、超音波診断成績の活用などによって改良を進めていくことが必要と考えられる。

「いけだ牛」の今後のますますの発展を期待している。

おわりに

繁殖経営で放牧が重要なことは今さら述べるまでもない。今回の発表で、岩手、北海道では広大な草地を基盤として、低コストを指向した放牧主体の管理が成されていることが紹介された。しかし平坦地域では、用地の不足もあって放牧の実施は困難な場合が多い。このような事情を踏まえて、熊本、長崎からは預託放牧、水田放牧、移動（畑地）放牧とそれぞれ地域に適した方法で放牧を実施または計画中であることが発表された。これは同様な立地条件にある多くの平坦地域の経営に貴重な示唆を与えるものである。

またいずれの発表でも、日常の飼養管理の要点として牛との親密な触れ合い、注意深い観察の重要性が強調された。牛を飼うには牛への愛情が基本であり、経営の規模が大きくなっても 1 頭 1 頭について、入念に接触し管理することが牛群全体の成績の向上とつながっていることを改めて強く感じさせられた。

最近の好調な枝肉価格の動向を反映して、あか牛の子牛価格も順調に推移している。また過度の脂肪を敬遠し、「健康によく、安全でおいしい」肉をとという消費者の要望は強まっている。さらに今回の発表でみられたように、飼育頭数が着実に増加しつづけ、今後も規模を拡大したいという農家、地域も少なくない。これらのことはいずれも望ましい肉用牛としてのあか牛に明るい展望を与えるものである。

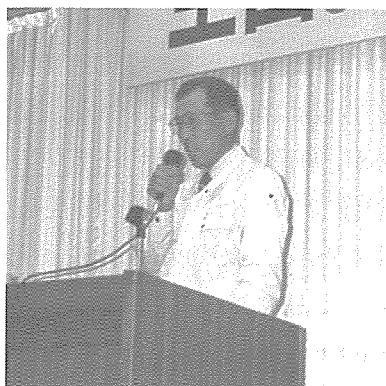
あか牛の明日のために、関係者の一致した努力を期待したい。

熊本型放牧畜産事業に参加して (牛から教えられた連帯感)

熊本県菊鹿町 富田 聖輝

私は、緑と清流と史跡など自然が昔のままで残る菊鹿町で、葉タバコ1町3反、繁殖牛12頭、水稲2町、外陸稲6反、小麦1町、期間作目で農業を営んでいる富田聖輝というド百姓です。

菊鹿町は熊本県の北端に位置し鹿本郡に属しています。北東約3分の2を林野が占める山間の町です。北部から東部にかけて八方岳、三国山、国見山など1,000m級の山々が連なり、これらの山岳地帯に源を発する内田川、木野川、初田川などの清流が山あいの農地を潤しながら南へ流れ菊池川に注いでいます。年平均気温15.4度、年平均降水量2,191ミリの比較的温暖な内陸性気候の地です。



人口8,000人、世帯数2,000戸、又産業として水稲を中心に畜産繁殖牛は110戸の300頭、野菜・栗・タケノコ・茶・メロン・葉タバコ32戸で47ha複合経営による営農が行われてきましたが、近年営農者の高齢化現象と合わせ輸入農産物の増加で所得も頭打ちの状態です。農業にも気合いが入らぬ状況であります。

家族は両親、子供1人の5人家族です。働き手は社長兼重労働の私と大蔵大臣兼労働者の家内の2人です。ここ2年位前より両親が病気がちで入れ替わりに入退院の繰り返し、労働的に限界を感じ、牛を減らそうかタバコを減らそうかと考えておりましたが、県畜協鹿本支所より牛の放牧の話があり、入牧期間も忙しいタバコの収穫時期とも重なるため喜んで5頭の牛を入牧しました。これからその放牧事業の事で発表させて戴きます。

今年5月6日、県畜協・家畜保健所・鹿本地方共済組合・狩尾牧野組合の方々に大変お世話になり、期待と不安の複雑な思いを抱きつつも無事入牧式を終え、牛達に「頑張れよ」と声を掛けタバコの芽かき作業が待つ家路へとつきました。

5月12日県子牛せり上場後急いで、狩尾牧場に家内と二人で熊畜20K、味噌1Kを持って入牧後初めて愛牛に逢いに行く。11日暴風雨だったが12日は晴天で気持ちが良い。我が家の牛5頭は一緒に入牧した15頭の牛達と同じグループに居た。「べべ」と呼んだが私の方を見るだけで近づかない、私は飼料をかつぎ牛の方へ近づき餌を5個所に分けて置いてみた、すると近づいて食

べ始めました。途中で味噌を丸めて手の上から1頭1頭食べさせる、実にうまそうである。家内いわく「草は食いよつとじゃろか、腹ん小もう成ったごたる」私もそう感じたが、「まだ初めちで慣れんけんたい」と言いながらも内心大丈夫だろうかと心配でした。

14日夜、阿蘇で時間雨量86mmの大雨が降ったとのテレビニュースを見て急に不安になりました。

15日早朝、強い雨が降り、入牧した牛が心配で独り狩尾牧場に向かいました。途中雨が強くなり牧場に着いた時は霧で視界5m位しか見えない。雨合羽を着て餌の熊畜担ぎ「べべ」と牛を呼びながら探すが、霧で身動きがとれなくなってしまった。「今日は逢えんばい」独り言を言いながら座り込み、煙草を吸いながら「べべ」と大声で呼んでみると谷の方で牛の鳴き声が微かに聞こえた様な気がした。再度呼んでみると確かに「モー」と声が聞こえる。立ち上がって餌を担ぎ、声の聞こえた方へ呼びながら谷川を飛び越え近づくと、そこに我が家の未經産牛のとみ号がこちらを見て鳴いて居るではないか。「とみどうした、仲間外れされて独りぼっちになったのか、可哀想に」と牛に話しかけながら餌を差し出すと、1口2口食べ何か落ち着かない様子で「モー」と鳴きながら私が降りてきた方向とは逆にゆっくりと歩きだした。私も急いで餌を担ぎ牛の後を追うと、時々私の方を振り向いて登っていく。そして登りつめた丘の上には我が家の4頭の牛の姿が見えた、「ここにおったか」そう言いながら餌を並べて置くと5頭の牛が仲良く分け合う様に食べ始めた。しかし1頭だけ腹が巻き上がっている牛に気づき、後に回ってみると足を痛めているではないか。足を地面につけられず歩くことも不自由な様子だ。その時1頭が足を痛め歩けないので、私の声を聞いた1頭が代表して谷まで私を迎えに来てくれたのだと悟り、牛達の能力の高さと仲間を思う愛情の深さを知ることが出来た。足を痛めた牛を中心に4頭が守るように餌を食べる様子を見ながら、涙が出る程の感動をこらえ「4日後には迎えに来るから皆で守ってやってくれよ」と別れを告げ、車を置いた道路に向かったが、どこをどう来たのか全く解らず辺りを迷いながらやっとの思いで車までたどり着いたのは、牛達と別れて1時間後の事でした。

牛の能力の高さと仲間を思う助け合いの気持ちがあれば、未經産牛であっても放牧事業が成功すると確信し、事業主体である県畜産農協、衛生面で全面的協力下さる家畜保健所、牧場を貸して下さる狩尾牧野組合の方々に感謝しながら霧の中をのろのろ運転で帰途についた。

19日、1日目定期血液検査の時、トラックを持参し足を痛めた牛を下牧させその後順調に回復し、町の品評会・郡共進階と勝ち明日の県共進会に出品する事が決定しています。この牛は、我が家のポス牛で平成元年11月生まれで7産していますので、未經産ばかりの中で目かじめ役として入牧した牛でしたが早期発見と早期対応が大事に至らずに済みました。私を迎えに来た、とみ号には感謝の気持ちで一杯でとても大事にしています。「牛の事は牛から学べ」が私の持論ですが牛の事は解らない事が多く、一生牛より教えてもらう事ばかりと思います。

今後は我が家の米・タバコ・畜産という営農体型確立のため、周年放牧とまでは行かなくとも、放牧事業をフルに活用しながら経営の効率化を図って、畜産いや牛飼いをあと30年は頑張るつも

りです。来年の事を言うと鬼が笑うと言いますが、チャレンジ第1弾として分娩後1ヶ月位で親子放牧を実施し4～5ヶ月で離乳し里おろしを実施して、里で飼った牛との比較（市場評価）を行って行くならと考えています。

広い草原で、親子の牛が自由に歩き回り、草をはむ姿が私は好きです。

これで私の発表を終わります。



繁殖部門と肥育部門の情報交換による 優良牛の作出を目指して

熊本県泗水町 坂本 咲栄樹

1 管内の概況

(1) 立地条件

菊池地域は、県の北東部に位置し、東部から北部にかけては阿蘇外輪山が連なり、西部から南部にかけては、菊池川と白川の流域に広がる平野、台地からなる自然条件に恵まれた農業地帯です。(図-1)

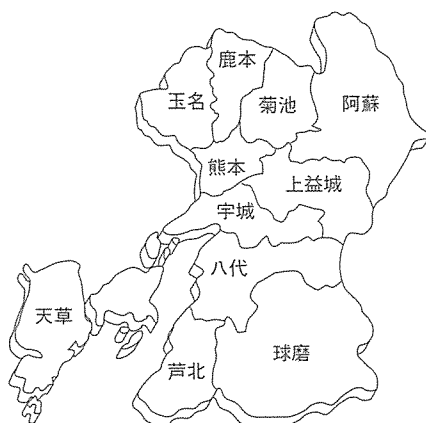


図-1 菊池地域の位置

(2) 畜産の概況

菊池地域の農業は、平成7年度農業粗生産額で見ると528億円で、県全体の13.7%を占めております。中でも畜産は300億円を越える程の畜産地帯です。(表-1)

家畜の飼養頭数は、乳用牛が25,314頭で県飼養頭数の47%、肉用牛が42,767頭で31%、豚が92,002頭で35%、鶏が117万羽で38%を占めております。(表-2)

当地域も他の畜産地帯と同様、子牛価格の低迷や高齢化のため繁殖雌牛の頭数が減少し、肥育頭数の増加が見られております。

昭和60年代からは、受精卵移植技術の導入が見られ、平成9年にはET産子1000頭目が誕生を見えています。

表一 平成7年度農業粗生産額

(単位：百万円、%)

区分	米	麦類	いも類	野菜	果樹	花き	工芸作	畜産	その他	計
菊池計	7,220 (13.7)	790 (1.5)	1,130 (2.1)	8,590 (16.3)	560 (1.1)	1,480 (2.8)	2,160 (4.1)	30,280 (57.3)	630 (1.2)	52,840 (100%)
熊本県	76,290 (19.8)	2,170 (0.6)	4,840 (1.3)	114,630 (29.7)	39,960 (10.4)	12,350 (3.2)	33,710 (8.7)	82,000 (21.3)	19,650 (5.1)	385,600 (100%)

資料) 平成7年熊本県農業所得統計

表二 家畜飼養頭数の比較(平成8年12月末)

(単位：戸、頭、羽)

畜種		肉用牛			乳用牛	豚	採卵鶏	馬
		繁殖牛	肥育牛	一貫				
菊池	戸数	464	165	40	480	117	28	52
	飼養頭数	4,352	32,622	5,593	25,341	92,002	1,171,000	629
熊本	戸数	19,015	531	185	1,194	449	236	202
	飼養頭数	36,547	84,857	14,205	53,388	266,011	3,100,387	4,098

資料) 熊本県畜産統計(速報)

2 グループ結成の背景及び経過

熊本県畜産農業協同組合菊池支所の肉用牛生産組織は、県の指定牛飼養農家で組織する改良組合(40名)と生産基盤の基礎を担う生産小組合(17組合)があります。私たち菊友会のメンバーも、それぞれの組織に加わりながら活動するとともに、菊友会で改良に重点を置いた活動を実施しております。(図-2)

菊友会のそもそもの発足は、昭和63年に畜産後継者(若手繁殖農家)が飼養管理技術の向上や他の地域農業後継者との交流を目的に結成されました。しかし、牛肉輸入自由化後、市場では肉質に重点を置いた取引がなされるようになり、わが菊友会も肉用牛の改良を目的とした組織に変容していくことになりました。

繁殖牛の改良については、肥育したデータをもとに計画的な交配が必要となりますが、菊友会でも繁殖から一貫経営に移行するものや肥育農家の参加があるなど情報の交換が的確に行われるようになってきています。

グループ内の繁殖農家は肥育農家に優占的に肥育素牛を提供し、肥育農家はその枝肉情報を返していくといったように情報のフィードバックに努めています。

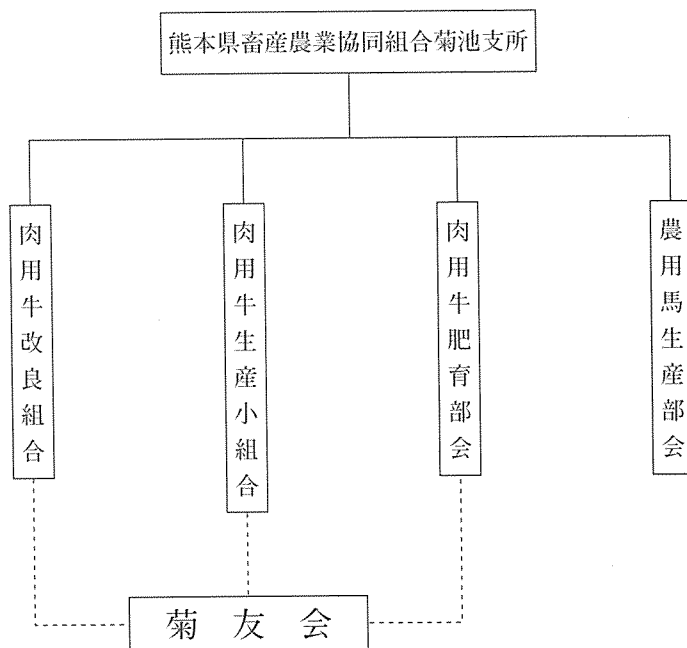


図-2 肉用牛生産組織体制

結成当時は部会員10名でスタートし、部会員の入れ替わりはあったものの現在も10名で活動しております。

飼養規模は結成当時から、平均9.3頭で、現在は14.2頭と1.5倍の規模拡大を図ってきました。当初は「経営の安定は規模拡大から」を合い言葉に、とにかく頭数を増やすことを第1目標に頑張ってきました。1戸当たりの繁殖牛の飼養頭数は、菊池全体と比較すると2倍近くになっています。(表-3,4)

しかし、最近の傾向として肉質が重視されるようになり、繁殖から肥育までのデータを収集分析することに努力することになりました。

肥育部門を開始する部会員や肥育部門の拡大をする部会員が出てきており、毎月の勉強会では血統の話、計画交配の話に華が咲いております。

表-3 1戸当たりの繁殖牛飼養頭数

(単位:頭)

項目 \ 年	昭和63年	平成3年	平成9年	備考
菊友会	9.3	11.2	14.2	
菊池市所管内	4.4	6.1	8.0	
菊池全体	3.4	3.9	6.9	

表－４ 部会員の飼養頭数の推移

(単位：頭)

部 会 員	年 齢 現 在	昭和63年		平成9年		備 考
		繁殖牛	肥育牛	繁殖牛	肥育牛	
1	41才	15		23	150	専業
2	21	8		12		米・メロン
3	39	32		46		米・たばこ
4	41	11		17	10	米・たばこ
5	21		150	6	280	専業
6	21	7		12		米・ゴボウ
7	41	5		8		米・野菜・モモ
8	39	5		5		削蹄師
9	27	7		10		米・たばこ・ゴボウ
10	33	3		3		米・野菜・ゴボウ
計		93	150	142	440	

3 グループ活動の実績 (表-5)

グループ活動は県家畜市場開催日に毎月の定例会を開催し、部会員の子牛出荷成績や市場性の高い血統及び交配方法等について検討しています。

また、部会員相互の意識の向上と、畜舎周辺の清掃及び環境美化の推進のため1年に4～5回各部会員の畜舎を巡回しています。

7月から8月にかけては、衛生管理の徹底を図るため部会員の共同作業で畜舎の消毒を行っています。その他、各種講演会、新技術の勉強会等には積極的に参加し、常に自分たちに刺激を与え、部会員相互で競争心を持つように論議を交わしております。

菊友会でもう一つ大切な活動は、婦人を含めた組織強化に努めていることです。独身者もおりますが、畜産を支えていく中では、婦人の協力が一番重要なことと考えておりますので、感謝の気持ちを込めて夫婦親睦会を実施しております。

表－５ グループ活動実績

月	活 動 内 容	月	活 動 内 容
4月	総会 セリ市反省会(定例会)	10月	受精卵関連勉強会 セリ市反省会(定例会)
5月	夫婦親睦会 セリ市反省会(定例会)	11月	セリ市反省会(定例会)
6月	会員巡回検討会 セリ市反省会(定例会)	12月	会員巡回検討会 セリ市反省会(定例会)
7月	畜舎消毒 セリ市反省会(定例会)	1月	セリ市反省会(定例会)
8月	畜舎消毒 セリ市反省会(定例会)	2月	先進地研修 セリ市反省会(定例会)
9月	地域共進会イベント主催 会員巡回検討会	3月	会員巡回検討会 セリ市反省会(定例会)



4 子牛出荷成績（表-6）

子牛の出荷成績は、まだまだ十分とは言えませんが、県家畜市場の平均を上回る成績をあげております。菊友会の活動が徐々にではありますが出てきているものと思われます。

表一6 平成8年度子牛出荷成績（褐毛和種）（単位：頭、kg、円）

項 目		菊 友 会	熊本県家畜市場平均	増 減
出荷頭数(頭)	雌	45	3,485	
	去勢	53	3,930	
出荷日齢(日)	雌	298	301	△3
	去勢	290	284	6
出荷体重(kg)	雌	282	283	△1
	去勢	293	299	△6
平均価格(円)	雌	311,000	281,000	30,000
	去勢	339,000	335,000	4,000
キロ単価(円)	雌	1,102	992	110
	去勢	1,156	1,120	36

5 今後の課題と方向

肉用牛を取りまく情勢が厳しいなか肉用牛経営の安定を図るためには、まずは基本的な飼養管理の徹底により繁殖成績を向上させること、次に枝肉データを分析した計画的交配に努めていかなければならないと考えられます。このためには、菊友会を軸として関係団体等の連携を密にして情報収集、技術の向上に努めたいと考えております。

今後は21世紀に向けて『新しい経営感覚』・『新しい技術開拓』を菊友会の基本理念として、部会員一致のもとで課題解決のために活動を強化して行きたいと思っております。

〔肉用牛生産の目標〕

- ・ 規模拡大 繁殖雌牛 200 頭（1 戸当たり 20 頭規模）
- ・ 新技術の導入 受精卵移植技術の導入及び育種価評価による計画交配
- ・ 肥育農家が求める素牛作り 子牛育成技術の向上
- ・ 1 年 1 産 飼養管理技術の徹底によるボディーコンディションの管理
- ・ 良質粗飼料の安定生産 堆肥を利用した粗飼料生産 『土づくり・草づくり・牛づくり』
- ・ 経営能力の向上 経営分析等による経営改善

〔組織活動の目標〕

- ・ 低コスト肉用牛生産 放牧技術（水田放牧等）の導入による省力管理の実施
- ・ ヘルパー制度の導入 ゆとりある畜産経営の実施のためのヘルパー制度の検討
地域の畜産振興を図るため出荷作業、生産検査等の作業請負
- ・ 情報交換の強化 先進地域等との積極的情報交換により技術の向上に努める



百姓は先祖を敬い家族相和し牛を飼え

長崎県加津佐町 吉田 敦

1. 加津佐町の概要

加津佐町は、島原半島の南西部に位置し、隣接町は、東に口之津町、西に南串山町、北に南有馬町に接し雲仙岳を望み、南は早崎海峡を隔てて熊本県天草と相対しています。

年平均気温 16.4 度、年平均降水量 1,722 ミリで気候は温暖です。

加津佐町の総土地面積は 2,437ha、耕地面積 897ha で、その 54% が普通畑となっています。

人口は、戦後の復員と引き揚げで 12,000 人台にまで増加した昭和 22 年をピークに次第に減少し、今では 8,500 人程度となっています。

加津佐町は戦前からジャガイモ産地として知られており、現在においても日本有数の産地です。

加津佐町における褐牛の推移ですが、昭和初期から昭和 20 年にかけて、和牛（黒牛）が役用、採肥用として 1 から 2 頭飼養され、イナワラや麦かん、いもづる等の副産物を飼料、敷料として利用し、そこで生産された厩肥を畑に施用していました。

一方、褐牛は性格が温和で飼いやすく、役牛としても使いやすいことから、昭和 20 年頃から徐々に褐牛の比率が高まっていきました。

その後、動力耕運機の導入によって役用としての役割が後退するとともに、ジャガイモの作付が急増し、麦、甘藷等の作付が減少したため、和牛にとっては飼料、敷料の減少となり、飼養条件が悪くなりました。よって和牛は減少してきました。

昭和 45 年には 401 戸、461 頭いたあか牛は、平成 9 年現在 29 戸、162 頭まで減少しました。



農地及び農家戸数

項 目		加 津 佐 町	
面 積	総 面 積 ha	2,437	
	耕 地 面 積 ha	897	
	内 訳	水 田 ha	322
		普通畑 ha	480
戸 数	樹園地 ha	95	
	総世帯数 戸	2,940	
	農家戸数 戸	542	
	内 訳	専業 戸	290
		1兼 戸	120
2兼 戸		132	

1995 農業センサス

肉用牛(繁殖)飼養農家戸数及び頭数の推移

年次	農家戸数	褐毛和種	黒毛和種
S45	404戸	461頭	18頭
S55	154	224	3
S60	112	172	0
H 2	108	303	10
H 7	38	204	10
H 9	29	162	16

農作物作付面積及び家畜飼養頭数の推移

年 次	農作物作付面積及び家畜飼養頭数											
	耕 種							畜 産				
	水 稲	麦 類	甘 藷	ば れ い し よ	露 地 野 菜	施 設 野 菜	温 州 み かん	肉 繁 殖 牛	肉 肥 育 牛	乳 用 牛	豚	鶏
S35	351	480	385	80	59	1	30		1,003	9	104	13,216
S45	317	116	127	329	95	5	280	479	442	302	927	79,498
S55	288	2	57	641	98	10	178	227	324	187	2,642	82,000
S60	295	1	26	662	76	12	124	172	512	130	2,310	114,000
H 2	241	0	14	670	62	14	90	313	1,293	90	2,096	143,000
H 7	235	0	8	594	51	16	80	214	1,835	86	2,130	130,000

(長崎県農林水産統計年報)

2. 経営の概要

家族と労働力

名 前	続 柄	年 齢	年間従事日数
吉田 敦	経 営 主	58	300
維津子	妻	57	320
学	長 男	31	320
和歌子	長男の妻	26	300
尚美	長 女	30	

経営耕地面積

(単位：アール)

	水 田	普通畑	合 計
自作地	75	111	186
借入地	175	50	225
合 計	250	161	411

作付面積及び飼養頭数

水 稲	180a
ば れ い し ょ	180a(春ばれいしよ100a、秋ばれいしよ10a、新ばれいしよ70a)
ト マ ト	22a
ア ス パ ラ	6a
繁 殖 牛	10頭
子牛生産数	8頭
飼 料 作 物	171a(ソルゴー41a、トウモロコシ30a、イタリアン100a)

農業施設及び主要機械

牛舎 213 m²、納屋 108 m²、乾草収納庫 141 m²、
FRP サイロ 10m²*2 基、ブロックサイロ 7m²*3 基、
パイプハウス 2200 m²、600 m²
トラクター 2 台 (25ps、22ps)、モア 7.5ps、コンバイン、
田植機、耕うん機 8.5ps、テイラー 6ps、管理機 3ps*2、
ポテトプランター、ばれいしよ堀取機、葉茎処理機、動力噴霧器、動力散布機、
背負い動噴 2、草刈機、2tトラック、軽トラダンプ、軽トラバン

3. 経営の発展経過

加津佐町の最大農産物である馬鈴薯が、今年は異常に安く、対前年比60%の価格で販売され、20年前の価格となりました。私も、経営の主体がもし馬鈴薯のままだったとしたら、経営破綻に追い込まれたと思うとぞっとします。

就農から離農まで

昭和32年就農しました。水稻+みかん+麦の経営で、みかんの間作として馬鈴薯を作付していました。豚も1頭飼養していました。

その後、豚を規模拡大し、36年頃150頭規模になりましたが、病気等により昭和40年豚を廃業しました。

昭和39年結婚、昭和42年一時的に離農しました。

再就農からあか牛導入まで

昭和48年10月、出稼ぎを止め再就農はしたものの、耕地は荒れ果て、貯えは無く、本格的な農業再会には程遠い状況でした。幸いにして自宅近くで土木工事が行われており、夫婦揃って働

くことができたので何とか暮らすことが出来ました。

年が明け工事も終わり、4月から水害で荒れた水田の50aの整地にかかり、6月末の水稲植え付けにかろうじて間に合い、秋の収穫時は1日14時間労働も楽しい思い出となった1年でした。

昭和50年、義父より水害被害田50aを3年間の小作料なしの条件で借り受け、農作業の合間を縫って、石拾いを行い、2t車45台分の石を2年間かかって拾いました。その間、耕地の整備を行い、トンネル馬鈴薯、玉葱の導入、トラクターの導入等、投資が先行し経営的には苦しかったのですが、農協の営農貸越約定制度に助けられ、なんとか経営を続けることが出来ました。

あか牛導入から牛舎建設まで

春の馬鈴薯、秋の米代金がある時は良いのですが、夏場に収入が全く途絶えてしまいます。そんな時、農協の指導員が夏秋キュウリを進めてくれました。「10a、100万円」夢のような金額です。

野菜には堆肥です。堆肥なくしては良い野菜は出来ません。幸いにして加津佐町では地力増進対策事業として町単独で素牛導入資金1頭40万円1年据置5年償還無利子の制度があったので、これを利用してあか牛を導入しようと考えました。妻は猛反対でした。豚で失敗し破産寸前まで追い込まれた想いは、妻としては到底忘れることの出来ないことだったのでしょう。私は野菜づくりのために堆肥が重要である点や、牛を飼うことで出荷出来ない野菜を牛に食べさせることが出来る点を説明し、牛には絶対濃厚飼料を与えないことを条件に妻に納得してもらいました。

昭和54年、素牛40万円は町の融資で、牛舎は豚舎の屋根をトタン代48,000円かけて補修して牛飼いをスターとしました。

翌年、待望の子牛が生まれました。雌が生まれれば保留して、雄が生まれれば販売して経費に当てようと計画しました。初産は雌でしたので保留しました。しかし、母牛1頭では増頭ペースが余りにも遅いため、町長に導入事業の枠を5頭に拡大してもらい、2頭目の導入も行い、繁殖牛は、3頭となりました。

昭和56年10月、農協主催の共進会に於いて、初めて導入した「あそ」が経産の部優秀1席、その子「あき」が育成の部優良賞に選ばれ、家族一同大喜びでした。

キュウリの方も堆肥のたっぷり入った畑で優良生産が出来、町内産キュウリの秀品の大部分は私の生産したキュウリでした。

昭和60年代になると、初めて導入した「あそ」の子供達、「あき」、「きく」、「かおる」、「なつ」、そして、孫の「第一あき」と頭数が増え、敷料、粗飼料が不足し、麦ワラを購入を始めました。麦ワラの収集時期が馬鈴薯収穫、水稲準備の時期に重なり、それも、7～10日と続くと、牛に対する手入不足から繁殖障害が出始めましたが、雑草を見方にしてなんとか乗り切りました。

牛舎建築からイチゴ導入まで

昭和62年、長男の就農を機に農業改良資金400万で、牛舎213㎡、ブロックサイロ7㎡*3基を建築しました。玉葱の後作にソルゴー50a(2回刈)、馬鈴薯の後作にトウモロコシ60aを作付けし、通年サイレージ給与が可能となり、サイロ回転率3回転、耕地利用率は200%を越えました。しかし、自給飼料、敷料は依然不足し、麦ワラの購入は続けました。イタリアンの乾草化を始めましたが、その貯蔵に困り、粗飼料貯蔵庫の建設も計画しましたが、資金的に苦しく着手出来ませんでした。馬鈴薯、玉葱、水稲主体の経営では地域的にどうしても生産額の増加が計れず、まさに「苦労して功上がらず」の状況が続きました。

イチゴ導入からトマト導入まで

平成元年、農協指導員から「馬鈴薯100a=イチゴ10a」と勧められ、2,200㎡のパイプハウスを農業後継者育成確保資金500万円で建設しました。翌年には農業粗生産額1,000万円を達成できました。

牛から施設園芸へ経営の主体を変えても、堆肥の多給により、良果の生産が出来、大玉率60%になる年もありました。

イチゴ導入と同時に水稲裏作の馬鈴薯の作付けを中止し、キュウリ、玉葱の栽培も止め、水稲の後作には種馬鈴薯用以外、全てイタリアンを作付けし、サイレージ、乾草の給与量が増えました。FRPサイロ10㎡*2増設、サイロ回転率4回転となり、飼料作物の作付けも増えました。イチゴ栽培は年中多忙で、気の休まる時がなく、耕地の手入れさえ出来ず、牛の飼養管理時間の短縮と労力の軽減のため、移動放牧を計画しましたが、イチゴとの同時進行はそれさえも出来ませんでした。

平成7年、農業粗生産額1,500万円を達成できました。しかし、その中から400万円近くの償還金は非常に苦しかったです。

麦ワラ収集の労力軽減のため、敷料をきのご粕に変更しました。また、自給率の向上のため、乾草貯蔵庫を改良資金300万円で建造しました。

平成8年、パイプハウス、牛舎の償還が終わったのを機に、時間のゆとりがないイチゴを止めトマトに変更しました。

トマトから移動放牧へ

経営の主体をイチゴからトマトに変更してから、7、8月の2ヶ月間は身体が休まる時間が出来、やっと耕地の手入れも出来るようになりました。

現在、長男の結婚を機に、経営費をトマトで、生活費を牛で賄うということで、これらの経営の全てを長男夫婦に任せています。そして私は、以前より考えていた移動放牧を始めようとしているところです。あか牛にはエサを自分で取ってもらい、自分の糞は大自然に処理してもらおう。あか牛も本当

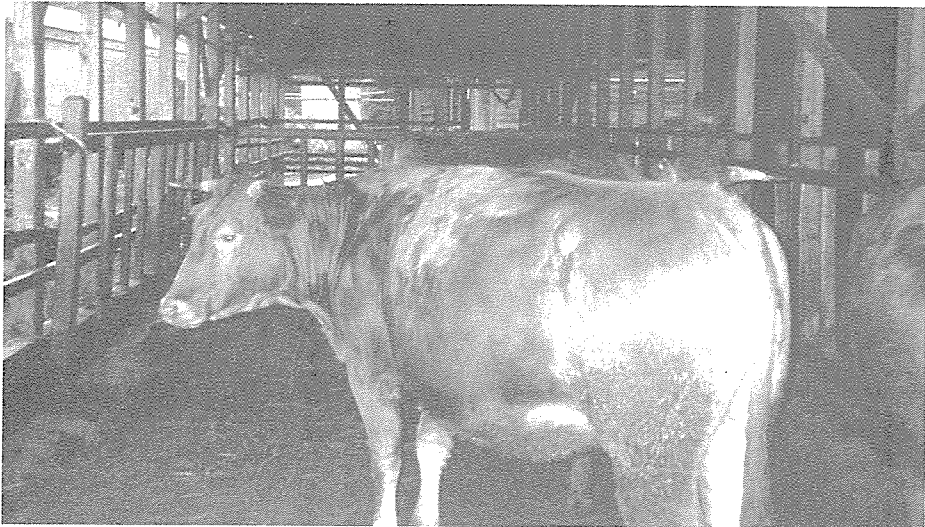
は牛舎の中でなく、太陽の下で生草を食べたいのだろうから。移動放牧が軌道に乗れば、現在10頭の母牛を徐々に増頭していくつもりです。純国産の飼料で飼うことができ、おとなしく、病気に強く、飼い易い、あか牛ならば可能と思います。

今、あか牛の飼養頭数が減少していますが、目先の経済性ばかりにとらわれず本当の経済性、効率を見つめ直せば、あか牛の優位性は明らかです。現在の我が家の経営があるのも、あか牛のお陰です。

「百姓は先祖を敬い、家族相和し、牛を飼え」

まぼろしの邪馬台国をお書きになった宮崎康平氏の言葉の意味を教えてくれたあか牛に感謝の気持ちで一杯です。あか牛とともに歩んで20年のわたしの体験でした。

以 上



私の提言するあか牛振興中長期計画構想

～あか牛が整備増殖を図る品種として岩手県肉用牛群整備増殖方針に組み入れられる～

岩手県川井村 佐々木 博

1. はじめに

1. 川井村における農業振興を図る上での

畜産（肉用牛）の基本方向

まず、最初の本村の肉用牛生産近代化計画及び方針について要約して紹介します。

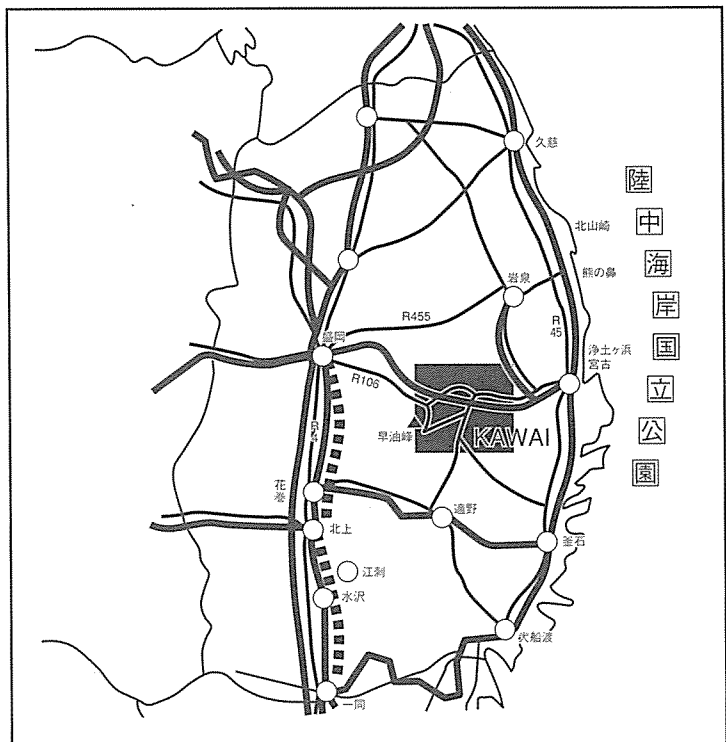
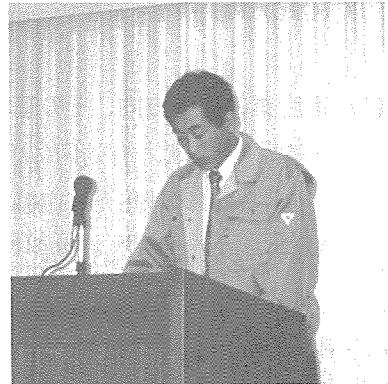
(1) 川井村の位置、そして農業振興を図る上での

肉用牛の位置づけ

川井村は、岩手県の中央を縦断する北上山系の中央部にあって、西は県都盛岡、東は新里村と大槌町に、南を大迫町と遠野市に、北を岩泉町に接する山々に囲まれたいわゆる山間農山村です。

総面積563.07km²は、村としては本県一、本州でも4番目という広大な資源を有しています。本村の中央部をJR山田線（村内に駅が6つ）が東西に走り、国道106号、340号の整備も進んで、主要都市への所要時間も大幅な短縮がなされています。

標高110mから1,917mといった大きな高低差のある中、その94%は山林原野が占めています。標高1,000m前後の境界にある高原地帯は、放牧利用度の高い牧場が広がり牧場面積におい



でも、5,313ha（うち5分の1が人口草地整備）と県内でも唯一広大な放牧地面積をもっており、このように山間地帯であるだけに、急峻かつ狭小な土地条件を有効に活用した農林業が古くから重要な産業として定着・発展してきました。

その中で、本村の畜産業とりわけ肉用牛生産は、耕種作目での利用が難しい土地条件を有効に活用できる農業として、現在まで重要な役割と位置を占めており、また、堆きゅう肥（有機物）の土地還元等による耕種農業との複合経営体制を形成し、園芸作目等その他農産業の持続・発展を図るため、今後においても積極的にその生産拡大、振興を図っていく必要があります。

(2) 畜産業の振興方向、その基本方策

①豊富な土地資源を有効的に活用する畜産業の展開

土地条件に立脚した畜産振興いわゆる草資源の有効利用が地域活性化のキーワードである。

②農家所得の向上と農業複合経営作目としての農業所得補完

地域に適した収益性の高い品種の導入による生産の拡大により農家所得の向上を図る。

③有利販売体制の促進と消費地との交流

「生産」は「消費」の始まりである。「消費」することが「再生産」の始まりである。

④グリーンツーリズムの一環としての畜産資源の活用

消費者との交流を深め、交流の場としての畜産資源の開発、整備を推進する。

2. あか牛が川井村肉用牛生産近代化計画及び、

岩手県肉用牛群整備増殖方針に整備増殖を図る品種として組み入れられる

(1) 本村における褐毛和種の位置づけは、平成8年度末に見直しが成され、名実ともに本村の整備増殖を図る品種として位置づけられました。

・生産近代化計画から要約して抜粋・

○価格的には黒毛和種よりもやや劣るが短角よりは、より有利に販売できる。（平均価格で10万円から15万円の価格差がある。しかも、黒毛和種と比べコストがかからない。黒毛和種と一緒に飼養されている農家は「黒毛和種は売るときは確かに高く販売されるが増体が悪いいため、コストが嵩み、しかも人工授精液の流通がスムーズでないために、毎回良質のザーメンを確保することが容易でない」ことをあげており、褐毛和種はいずれの点でも受け入れやすく、発情も見つけやすいなどの利点がある。

○日本短角種と同様「夏山冬里方式」で飼養管理ができるし、まき牛繁殖でも適用できる。

○早熟早肥でおとなしく飼いやすいため、高齢者や農家の主婦でも容易に飼養できるので増頭が可能である。

○流通面において、村内、県内に褐毛市場がないため、北秋田褐毛市場に出荷しているが、市場価値の高いあか牛市場に上場することで市場価値が高い。輸送費も生産者相互の協力関係により出荷コストも比較的安い。当面、北秋田市場を核として市場活性化のため、県を越えた交流の中で振興していくことがメリットが大きい。

しかしながら、地元市場開設が出来る推進体制が不可欠であり、そのためには市場を開設できる飼養頭数の確保が課題であるが、そのことよりも、早急な課題として肥育農家の育成が急務であります。将来的には、地域内一貫生産体制を確立していく必要があるが、村では、近隣自治体の出資による、第三セクター社団法人宮古下閉伊肉牛振興公社が設立されました。この公社の業務を大別すると、公共牧場の一元管理体制の構築と肥育の実証展示事業の二つに分類され、あか牛の肥育実証も計画されており、肥育農家の育成にも力を注いでいただけることで意を強くしております。

(2) また、平成9年3月にあか牛を整備増殖を図る品種として増殖方針に組み入れられました。

岩手県では、「酪農・肉用牛生産近代化計画」を策定し、「肉用牛群整備増殖方針」に基づき肉用牛生産の振興が図られてきましたが、産地の立場から、県の奨励品種として認定するよう働きかけをしてきたところ、平成8年12月中旬に岩手県農政部長以下、県畜政課長、畜産課長らが現地を訪れ生産者との懇談を催し、生産者のあか牛に対する考え方、要望等意見交換がもたれました。

その結果、「高齢化や担い手不足が深刻となっている中山間地域では、恵まれた粗飼料資源を有効に活用でき、省力的で飼いやすく、経済的にも優れた「褐毛和種」の生産意欲が高まっていることから、岩手県としても増殖方針に褐毛和種を加えた肉用牛振興を図る必要があることから正式に奨励品種として認知されました。

このことにより、家畜導入事業資金供給事業を活用し整備増殖を図ることができました。

あか牛生産状況の推移

1. 肉用繁殖牛頭数の推移及び目標

岩手県川井村（褐毛のみ岩泉町、遠野市含む）

区 分	4年度(1年次)	5年度(2年次)	6年度(3年次)	7年度(4年次)	8年度(5年次)	9年度(6年次)	11年度(8年次)	13年度(目標年)	
日本短角種	1,066	847	693	512	484	432	400	400	
褐毛和種	秋田産	16	30	39	60	87	90	110	155
	熊本産	—	—	—	—	6	6	60	80
	北海道産	—	—	—	—	—	—	—	15
	自家保留	—	5	5	5	5	10	30	50
	小 計	(100)16	(219)35	(275)44	(406)65	(613)98	(662)106	(1250)200	(1875)300
黒毛和種	15	17	20	22	16	25	50	50	
合 計	1,097	899	757	599	598	563	650	750	

2. 肉用肥育牛頭数の推移及び計画

岩手県川井村

区 分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	11年度	13年度
日本短角種	382	534	392	347	328	300	250	250
褐毛和種	—	1	1	3	3	3	75	100
合 計	382	535	393	350	331	303	325	350

3. 褐毛和種生産子牛（市場）の状況

岩手県川井村

区 分	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	備 考
褐毛和種	雌	—	175,100	177,796	318,000	247,715	257,000
	去	—	212,752	262,960	320,444	293,550	335,666
	平均価格	—	196,279	219,005	319,885	270,633	307,571
							9年度は4月市場で8年生子牛14頭出荷(12、2月市場で9年生子牛70頭程出荷予定)

4. 褐毛和種繁殖基礎雌牛の種雄牛別導入状況

岩手県青松牧場（遠野、岩泉含む）

父牛の名号	頭 数	父牛の名号	頭 数	父牛の名号	頭 数	父牛の名号	頭 数
光重 E T	7	第七重桜	1	玉 波 1	5	第二重波	2
第三光丸	1	第五春玉	10	第二光重	1	福 光 丸	1
第十光丸	9	春 波 6	3	春 玉	3	朝 丸	3
光 武	1	第二十八重川	7	春 波 3	12	玉 波	2
波 丸	1	重 玉 5	6	龍 波	2	春 桜 1 4	11
春 波	5	第三光泉	2	第七光丸	6		
光 春	1	重 武	2	春 栄	2	種雄牛26	106

3. 私の提言する川井村のあか牛生産振興中長期構想

村も、私どものこれまでの取り組みに対し理解を示し、村単独の補助事業の創設や、家畜導入事業の創設など積極的に取り組んでいただき、本村の畜産の基本計画であります「肉用牛近代化計画」の中に、褐毛和種の振興という文言を入れていただきました。

育種改良面においては、現在牧牛として利用している秋田産の組合有「春桜14」は血統的に産肉能力の面で優良牛であり、価格面においても高値で購買されており大切に供用していきたいと考えており、今後、現役、勇退後も精液採取を試みる必要があると考えております。

また、繁殖素牛の増頭に伴い供用種雄牛が必要なことから、直接検定済種雄牛「波川号」を平成8年10月下旬に熊本県より借受し2頭の種雄牛でまき牛繁殖を行っております。波川号については地元で肥育出来る体制をつくっていただき、現場後代検定を行い、生まれた産子は地元の肉牛公社の肥育センターで肥育し産肉能力を繁殖農家にデータ等ヒードバックさせ、改良増殖に役立てていきたいと考えております。現状では、まき牛繁殖が主体となっておりますが、改良を促進する上で冬場

の舎飼時期（おおよそ6ヶ月）に発情を見極め、極力人工授精を行うよう生産者相互が発情発見能力を養い人工授精率を高め、改良増殖につとめてまいりたいと考えております。（現在第三光丸、波丸、第十光丸、光武の精液を保有し、血統をみて人工授精を行うよう指導しております。）

また、種牝牛の改良面においては、導入当初から登録協会の指導を受け、繁殖登録時（3歳登録時）に全ての牛にスーパーアイミート（超音波肉質測定）を使用し、極端に悪い種牝牛は入れ替えるなど、優良基礎雌牛の確保につとめてまいりたいと考えております。

更には、現在北秋田市場のみからの基礎雌牛の導入を図っているところですが、良い基礎雌牛は、九州や、北海道からも導入するよう心がけ優良基礎雌牛の確保につとめてまいりたいと考えております。

また、今年度は昨年度に引き続き放牧中における家畜の飼養管理技術を修得する意味で、第3回目の川井村褐毛和種総合共進会を組合と村畜産振興協議会との共催で開催し、北秋田畜連宮腰参事氏を審査委員長にお願いし、また原産地の熊本畜連からも工藤四朗本部長外2名、宮古地方畜産振興協議会、川井村、農協、牧連等多くの関係機関の指導をいただきながら盛大に開催し、併せて「生産」の始まりは「消費」なり、「消費」することが「再生産」の始まりを・・・モットー・・・に、あか牛に関心ある関係者を招待し、あか牛の試食会を開催し、生産者の生産意欲の高揚に役立ててまいりました。

今後、日本あか牛登録協会、熊本畜連、北秋田畜連をはじめ全国のあか牛飼養関係者から、ご指導ご支援をいただかなければならないと考えております。

更には、関係機関のご支援は勿論のことではありますが、なんといっても、県の奨励品種として認定していただいたことは、行政や農協に頼ることなく、組合員の自助努力によって畜種転換に挑み、真剣に生活の糧となるものを追い求めてきた努力の産物であると思っております。

しかしながら、このことに甘んじてはいけないと思っております。まだ、第一ハードルを越えたに過ぎません。今後の生産振興を図っていく上で、私は比較的若い担い手の一人ではありますが、村全体が後継者不足であり、生産人口も高齢化しております。

今後向こう4ヶ年間10年目に向けた中長期の取り組みをしていかなければならないと考えております。

私の提言する中長期構想（決意）

- 1、2001年（10年次）は200頭以上にすること。毎年最低20頭ずつ増頭すること。
- 2、産肉能力の高い繁殖基礎雌牛を導入し、3等級以上の肥育素牛生産を行うこと。
- 3、改良増殖を図ることと合わせ低コスト化のために人工授精率を高めること。
（当面50%以上を目指す）
- 4、子牛の出荷月齢を現状の平均11ヶ月から9ヶ月に短縮させること。
- 5、高齢化対策としての越冬飼料確保対策及び肉用牛ヘルパー対策を充実させること。
- 6、肥育に関心ある生産者を先進地に派遣する制度を設けさせ、肥育技術の研鑽を深め自信をつけさせた上で肥育経営に誘導させる対策を講じること。（組合独自の派遣制度も検討したい）
- 7、あか牛の全国ネットワークを構築し、常に情報交換につとめお互いの技術研鑽が高められる環境をつくること。

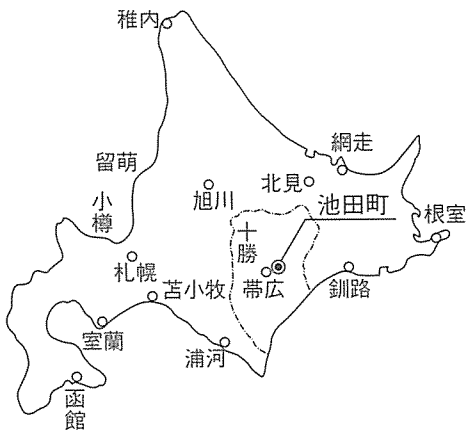


私の肥育素牛生産

北海道池田町 松本 智章

1. 池田町の概要

北は大雪山系、西は日高山脈に囲まれた雄大な十勝平野の中央やや東寄りに位置する池田町は、人口約9,300人、農業を基幹産業とする町です。東西25km、南北32km、総面積は372km²の平坦な地勢で、年間の平均気温は6℃、降水量は約900mmで、年間全体では晴天が多く、雨量・積雪量が少なく、不快な梅雨期もないクリーンな自然環境に恵まれています。十勝平野を縦貫する十勝川と利別川の大河川を有するほか、多数の小河川が町内を流れ、秋には十勝川と利別川にサケが遡上します。



池田町では公営企業として全国で初めてワイン醸造に着手し、さらに町営レストラン、自然環境を生かした「まきばの家」(宿泊、バーベキュー)などの関連施設のほか、町営有線テレビ、「いきがい焼き(陶芸)」など、ワインと牛肉、農産物を中心とした産業推進と、自然環境と文化性を大切にしたい町づくりを目指しています。

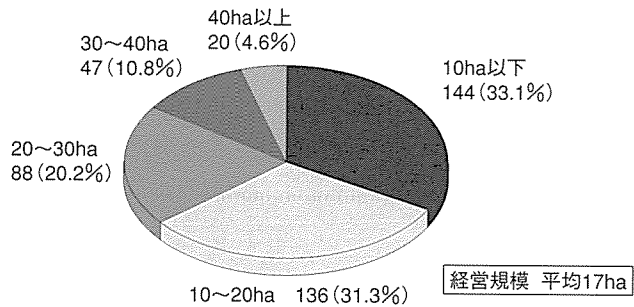
また、一大イベントとして人気を呼んでいる「ワイン祭」など池田町には年間を通じて多くの観光客が訪れています。

(1) 農業生産

農家戸数435戸で、そのうち専業農家は64%、耕地面積は10,000haで農家1戸当たりの経営面積は17haと十勝平均28haを大きく下回っているが、他町村と比較して集約的かつ複合的農業が行われています。

昭和40年代に約1,770haあった水田が今では97%転作されており、主要作物は小麦1,890ha、豆類1,888ha、甜菜1,370ha、じゃがいも450ha、野菜250ha、飼料作物4,165ha(平成8年度統計)の他、長芋、花き等にも力を入れています。

農業経営規模(グラフ)



池田町の農業生産

単位：100万円

年次	農業粗生産額										畜産				合計	
	耕種	耕種								畜産		乳用牛	肉用牛	豚	その他	
		米	麦類	雑穀豆類	いも類	野菜	工芸作物	その他	計	計						
昭和48	3,626	2,297	427	11	996	228	100	526	9	1,329	904	262	28	135		
52	5,570	3,964	1,150	107	1,244	492	165	774	32	1,606	1,209	207	123	67		
56	5,911	4,096	318	255	1,616	297	124	1,387	99	1,815	1,330	316	133	36		
60	8,140	5,996	316	1,317	1,775	384	313	1,751	140	2,144	1,459	535	62	88		
平成 1	8,290	5,588	262	1,115	1,827	346	743	1,161	134	2,702	1,467	1,035	85	115		
5	7,330	4,890	0	1,159	947	454	1,037	1,166	127	2,440	1,384	974	32	50		
6	7,996	5,672	85	1,188	1,417	404	1,166	1,226	186	2,324	1,325	935	27	37		
7	7,795	5,384	72	1,071	1,423	473	843	1,345	157	2,411	1,279	1,023	14	95		

(2) 畜産の概要

家畜の飼養頭数をみますと、肉牛については、黒毛繁殖68戸で530頭、褐毛は48戸（内繁殖経営36戸、一貫経営12戸）で繁殖牛1,320頭、肥育牛480頭であり、畑作との複合経営の中でも重要な役割を担っています。乳牛は71戸（内生乳出荷戸数59戸）で3,313頭（内経産牛1,934頭）となっており、十勝の平均と比較すると、中小規模の農家がほとんどです。馬は54戸、320頭でそのほとんどを農用馬が占めています。

褐毛和種の飼養頭数の推移

(頭数)

年次	繁殖牛			肥育牛	合計
	経産牛	未経産牛	計		
昭和46		124	124		124
50	106	35	141	63	204
51	44	5	49	30	79
52	50	6	56	30	86
53	54	15	69	35	104
54	69	46	115	27	142
55	83	306	389	23	412
56	222	293	515	111	626
57	657	167	824	164	988
58	957	122	1,079	347	1,426
59	925	145	1,070	375	1,445
60	916	165	1,081	428	1,509
61	947	174	1,121	602	1,723
62	1,062	154	1,216	500	1,716
63	1,191	129	1,320	401	1,721
平成 1	1,263	157	1,420	390	1,810
2	1,334	161	1,495	468	1,963
3	1,350	110	1,460	562	2,022
4	1,483	84	1,567	552	2,119
5	1,459	62	1,521	632	2,153
6	1,332	51	1,383	679	2,062
7	1,245	80	1,325	590	1,915
8	1,206	114	1,320	482	1,802

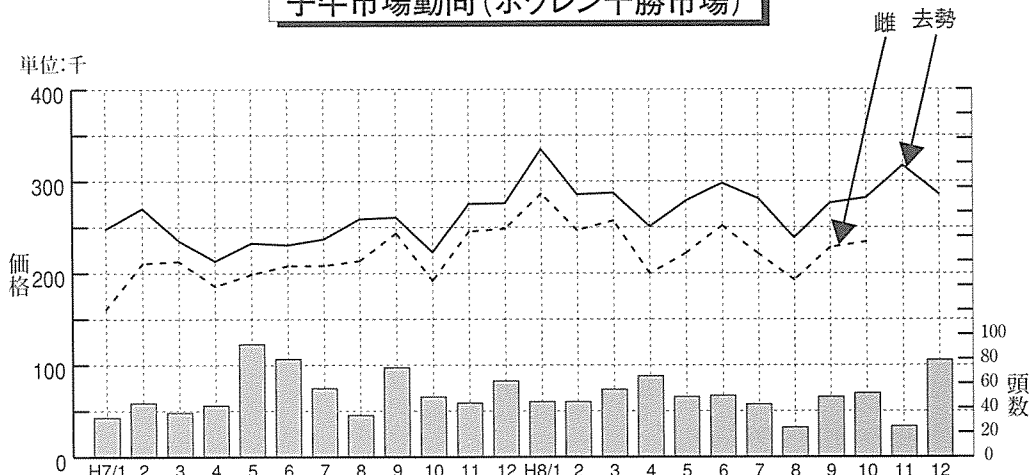
(3) あか牛の概要

池田町では昭和48年より、畑作の副産物の利用、堆肥の還元等に基づく土地生産性の高い集約的農業の確立を目指し、飼養環境の適応性、牧草等の粗飼料の利用性及び肥育効率等に優れた品種特性を有するあか牛の導入、増頭が図られました。昭和55～57年には公団営畜産基地建設事業で26戸の農家

を中心に約650頭が先進地である熊本県等から導入されるとともに町営肥育センターが整備されました。

生産された子牛はホクレン十勝市場へ出荷され、各地の肥育業者へ取り引きされています。又その一部は民営化された肥育センターに戻ってきており、これに加えて、町内一貫経営、町営牧場で肥育された牛は、町営食肉センターで屠殺解体処理され「いけだ牛」として地元食肉業者に取り引きされています。

子牛市場動向(ホクレン十勝市場)



子牛市場動向(十勝ホクレン市場)

年/月	頭数	平均体重		平均価格	
		去勢	雌	去勢	雌
H7/ 1	32	344	312	248,194	161,039
2	44	326	308	270,560	210,737
3	36	348	315	235,377	212,903
4	42	345	315	213,210	185,821
5	92	333	331	232,780	198,687
6	80	339	329	230,696	208,032
7	56	330	314	237,106	208,193
8	34	328	300	258,894	213,452
9	73	333	317	260,646	243,395
10	49	324	314	222,686	191,616
11	44	318	310	275,504	245,357
12	62	300	294	276,102	248,408
H8/ 1	45	323	314	334,844	286,340
2	45	317	300	285,702	246,749
3	55	329	334	287,408	257,206
4	66	344	327	250,654	199,723
5	49	321	333	278,688	221,767
6	50	321	315	297,804	251,587
7	43	333	320	281,136	221,150
8	24	312	328	238,548	192,724
9	49	336	331	276,219	227,868
10	52	337	333	281,999	234,110
11	25	415	485	317,240	
12	79	334	303	285,851	221,212

	平均価格		kg/価格	
	去勢	雌	去勢	雌
H7平均	246,813	210,637	746	672

	平均価格		kg/価格	
	去勢	雌	去勢	雌
H8平均	284,674	232,767	849	694

2. 経営の概要

(1) あか牛との関わり

畑作経営であったわが家があか牛を手掛けたのは、昭和55年度における公団営畜産基地建設事業の取り組みが始まりです。その年7月に熊本県より5頭をはじめとし、以後継続的に導入し57年末には23頭を飼養するまでになりました。又、昭和61年からは規模拡大を図るべく自家保留はもとより町保有のあか牛を購入し、平成元年には30頭になりました。更にその後は年次的に増加し平成6年度には35頭を数えるまでになりました。

(2) 概況及び畜産収入

- 1) 家族構成 自分、妻、両親 4人
- 2) 耕作地 畑作地 19ha (甜菜5ha、秋まき小麦4ha、豆類8ha、コーン1.5ha、野菜0.5ha)
採草々地 5ha
山林 15ha
放牧地 80ha (7人共同、組合組織で運営している)

3) 畑作副産物(麦殻、豆殻)の肉牛への利用

4) 肉牛堆肥の畑作への還元

5) 畜産収入の構成

単位：千円

	H7	H8	H9
販売頭数	(31頭)	(26頭)	(21頭)
素牛販売高	7,867	7,627	6,519
奨励金その他	1,698	1,688	497
合計	9,565	9,315	7,016

(3) 経営のポイント

(肥育素牛の資質の向上)

平成5年度までは牧牛主体でありましたが、平成5～6年度における価格低迷に伴い、6年度末の黒毛導入と共に全て人工授精に切り替えました。平成6年度までは販売月齢は1年弱で増体重(DG)も1.0に及びませんでしたが、下表でもわかりますように人工授精に切り替えてからは販売日齢、増体重成績、共に向上してきています。

素牛販売成績

	性別	販売日齢	平均体重	平均価格	DG	kg/価格	日齢単価
H7	去勢	303	334	258,000	1.00	712	851
	雌	313	325	245,000	0.94	753	783
H8	去勢	272	309	295,000	1.02	955	1,084
	雌	333	338	260,000	0.93	769	781
H9	去勢	266	330	318,000	1.12	964	1,195
	雌	308	333	272,000	0.99	817	883

(繁殖・育成管理)

農繁期にはマーカーを利用して発情発見に努めています。平成8～9年度においては人工回数1.75回、空胎日数69日でありました。去勢（バルザック）、離乳については3～4ヶ月を目安にしています。

(放牧管理)

地域の7戸共同で所有する放牧地（約80ha）を5月末から11月初旬までの間利用しています。

放牧頭数は常時120頭前後で、放牧期間中は毎日交代で巡回を行い、事故の防止に努めるとともに共同意識を高めています。また5月中旬には、各戸の出役による、トラクターと人力での施肥作業と牧柵修理等を毎年実施し、経費削減に努めています。

(生産コスト削減のために)

牧草（年2回収穫）、コーンサイレージ、畑作の副産物である麦殻・豆殻などの十分な敷料と粗飼料、又、冬期間には安価なビートパルプを給与することによって支出を抑えるとともに、放牧による足腰の強い素牛づくりを心がけています。ちなみに繁殖雌牛にはほとんど濃厚飼料を与えません。

(意識の向上)

私が素牛生産にあたって常に心がけていることは、当たり前を当たり前という気持ちで、特に、

- ①鋭い観察力（下痢、風邪、人工）
- ②牛とのコミュニケーション
- ③神経質な牛への対処
- ④優秀な精液による人工授精
- ⑤牛舎環境整備
- ⑥視察、研修会等への積極的参加による飼養技術の向上
- ⑦牛を家族同様、大切に思う

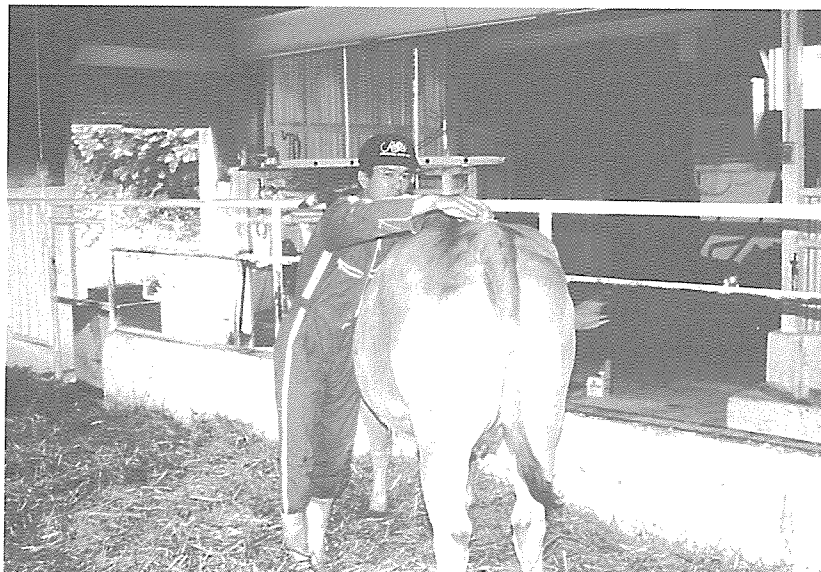
等の様な事が挙げられます。

あか牛は「黒毛に比べ病気に強く、増体が良く、泌乳量も極めて多く、双子でも十分飼養することが可能である」といった優れた能力を十分引き出した素牛生産を心がけています。

4. 課題と方向

- ①繁殖素牛更新による牛群整備（計画交配による自家保留と優良繁殖牛の導入）
- ②人工授精回数の引き下げ
- ③事故率の低下
- ④草地更新を図り栄養価の高い牧草の給与
- ⑤経営規模の拡大
- ⑥去勢・雌平均の販売日齢目標 270日!

最後に他地域への研修視察はもとより、情報交換を行い、北海道池田あか牛の資質向上に努めていきたいと思えます。農業新聞のトップを飾った記事に「褐毛は飼いやすく買いやすい」とありましたが、私は生産者として「飼いやすく育てやすい」と確信しています。



会 報

○ 監査会

平成9年5月8日、本会事務局において定期監査が実施された。磯川、平野両監事が出席、平成8年度事業報告書ならびに収支計算書、関係書類諸帳簿の整理状況、その他会務運営全般にわたって監査が行われた。

○ 理事会

平成9年3月10日、熊本県畜産会館において平成8年度第2回理事会を開催し、次の議案について審議した。

1. 報告事項

- ① 定款変更の認可について
- ② 農林水産省の業務監査結果について

2. 会費及び登録登記料の配分について

3. 平成8年度事業推進及び経理の状況について

4. 平成9年度事業計画案及び収支予算案について

5. 平成9年度通常総会の開催日について

平成9年5月30日、熊本県畜産会館において平成9年度第1回理事会を開催し、平成9年度通常総会に提案する議案3件と、次の議案について審議し、いずれも原案通り承認可決した。

1. 中央審査委員の委嘱について
2. 諸規程(役職員旅費支給規程、会計処理規程、職員服務規程、審査委員任用委嘱内規)の改正について
3. 臨時職員賃金支給規程の制定について

○ 通常総会

平成9年5月30日、熊本県畜産会館において平成9年度通常総会を開催した。当日は農林水産省畜産局の分部喜久男家畜生産課課長補佐(畜産局長代理)、白岩九州農政局畜産課長、磯川熊本県畜産課長など来賓と、各県支部から多数の関係者が出席して下記の議案について審議、いずれも原案通り承認可決した。

第1号議案 平成8年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、
財産目録及び貸借対照表の承認の件

第2号議案 平成9年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)の承認の件

第3号議案 役員の改選の件

○ 役員改選結果

任期満了に伴う役員改選の結果、理事の重任11名、新任4名、監事の重任1名、新任1名がそれぞれ選任された。

理事（重任） 續 省三、岡本 篤、成田廣造、黒肥地一郎、木原竹弘、吉田敏雄、
高田俊男、佐々木富雄、魚住汎英、府内哲熊、穴見盛雄
（新任） 佐藤昌明、中川利美、源 孝行、岳野 勝

監事（重任） 磯川宗逸
（新任） 太田黒鐵郎

なお、互選の結果は下記の通り。

会 長 續 省三
副会長 岡本 篤、成田廣造
常務理事 黒肥地一郎
代表監事 太田黒鐵郎

○ 中央審査委員の委嘱・任命

中央審査委員の任期満了に伴い、下記の通り委嘱・任命された。

所 属	氏 名	役 職 名
学識経験者	古賀 脩	九州大学名誉教授
	岡本 悟	佐賀大学農学部教授
	原田 宏	宮崎大学農学部助教授
各支部推薦	菅井 勉	北海道支部（北海道肉用家畜協会指導部長）
	高橋 辰雄	秋田県支部（秋田県畜連参事）
	宮腰 和男	同（北秋田畜連参事）
	橋本 健士	長崎県支部（元長崎県経済連県南事務所長）
	大森 英之	同（長崎県経済連県南事務所調査役）
	松本 道夫	熊本県支部（熊本県農政部畜産課主幹）
	田川 博稔	同（熊本県畜産研究所生産技術部長）
	工藤 四朗	同（熊本県畜産農協管理副本部長）
	大村 直純	同（同 生産振興部長）
	後藤 幸男	同（南阿蘇畜産農協参事）
深水 孝範	同（球磨畜産農協業務指導課長）	
本 会	黒肥地一郎	常務理事
	松川 昭義	事務局長
	児玉 一宏	登録課長（熊本県家畜改良協会出向）

注：行政指導機関（農水省）の候補者については現在委嘱交渉中

○ 全国あか牛研究大会

平成9年度全国あか牛研究大会は、10月24日、熊本市石原町の火の国ハイツに全国から200名近い関係者を参集して盛大に開催した。

熊本県内で開催する全国大会は3年ぶりのことで、今回の会期は熊本県畜産共進会に併せて開催したものである。

当日は午前中、畜産共進会の枝肉部門が開催されている熊本畜産流通センターにおいて枝肉の格付け、講評、さらにはセリ市を全員で見学した。熊本県内から種雄牛別に出品されているあか牛の枝肉について、「あか牛でこんなにすばらしいものができるのか」と、驚きの目を向けていた。

午後は会場を火の国ハイツに移し、續会長の主催者あいさつに続いて、全国肉用牛協会の内藤専務、熊本県畜産課の磯川課長からそれぞれ来賓のあいさつがあった。

事務局の日程紹介、事務連絡の後、京都大学大学院教授の佐々木義之教授の「遺伝的評価値を活用したあか牛の改良」と題した特別講演があり、遺伝の基本的しくみや、育種価に基づく選抜方法、優れたあか牛を作るための交配方法、そのためには誤りのないデータ収集の大切さなどについて判りやすい解説がなされた。また、最新の育種技術についても披露された。

さらに、全国研究会では恒例となった意見発表会では、熊本県2名と長崎県、岩手県及び北海道の代表者が、地域の活動状況やあか牛振興についての考え方についてそれぞれ熱弁をふるった。(関連記事は別記掲載)

なお、次回開催地は秋田県に決定し、時期と場所については秋田県支部に一任された。



平成8年度 事業報告書

1. 概況

平成8年度は、わが国の農畜産業界にとって難題の多い年であった。すなわち、英国で発生した狂牛病の問題をはじめとし、続いて発生した病原性大腸菌O-157による集団食中毒事件など、農畜産物の生産から消費に至る各段階に大きな衝撃を与えた。

その影響を受けて、これまで順調に伸びてきた牛肉消費は減退し、さらに安全性や生鮮度の問題が大きく取り上げられてきた。また、景気回復の遅れから高級牛肉離れが進む一方で、中規格牛肉の需要が増大して、A3規格の枝肉価格は堅調に推移し、その結果あか牛の子牛価格は安定基準価格を越える水準まで回復し、生産農家の顔にもいくらか明るさが戻ってきた。しかし、繁殖雌牛頭数の減少から、子牛の生産頭数の回復までには相当の時間がかかりそうである。

このような情勢の中で、本会の登録事業は、前年度において過去最低の水準まで落ち込んだが、本年度においては産肉登録、繁殖登録について幾分回復の兆しが見えてきたことは注目される。

以下は本会が実施した事業の概要である。

2. 庶務関係

(1) 定期監査

平成8年5月10日、本会事務所において、瀬口、平野、大塚の全監事出席のもとに定期監査が実施された。

(2) 理事会（第1回）

平成8年5月23日、熊本県畜産会館において理事会を開催し、平成8年度通常総会に提案する議案5件と下記の議案について審議し、いずれも原案通り承認可決した。

- ア. 支部交付金配分額の改定について
- イ. 職員服務規程の一部改定について
- ウ. 臨時職員賃金支給規程の制定について

理事会（第2回）

平成9年3月10日、熊本県畜産会館において第2回理事会を開催し、下記の事項について審議した。

- ア. 報告事項
 - ① 定款変更の認可について
 - ② 農林水産省の業務監査結果について
- イ. 会費及び登録登記料の配分について

- ウ. 平成8年度事業推進及び経理の状況について
- エ. 平成9年度事業計画案及び収支予算案について
- オ. 平成9年度通常総会の開催日について

(3) 通常総会

平成8年5月23日、熊本県畜産会館において平成8年度通常総会を開催し、下記の議案を審議、いずれも原案通り承認可決した。

- ア. 平成7年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、財産目録及び貸借対照表の承認の件
- イ. 平成8年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の承認の件
- ウ. 平成8年度賛助会費の決定の件
- エ. 登録登記料の改定の件
- オ. 監事の補欠選任の件

(4) 臨時総会

平成8年11月21日、長崎県南高来郡深江町町民センターにおいて平成8年度臨時総会を開催し、下記の議案を審議、いずれも原案通り承認可決した。

- ア. 定款変更に関する件
- イ. 平成9年度会費及び賛助会費の改定の件
- ウ. 子牛登記料及び交雑登記料改定の件

(5) 役員人事

理事（常務理事）辞任	市川昭吉（平成8年5月23日付）
理事辞任	井野則男（同日）
監事辞任	瀬口幸介（同日）
同	大塚務徳（同日）
常務理事就任	黒肥地一郎（同日）
監事就任	磯川宗逸（同日）
同	源孝行（同日）

(6) 農林水産省法人検査

平成9年1月9日、本会事務局において農林水産省家畜生産課の高橋静雄技官、佐々木敦事務官による法人検査が実施された。当日検査された主な事項は下記の通り。

- ア. 事業の運営状況
- イ. 庶務の処理状況
- ウ. 会議の運営状況
- エ. 組織の状況
- オ. 財産の管理状況
- カ. 会計経理の状況
- キ. その他

(7) 農林水産大臣の認可、承認

- ア. 定款の変更の認可（平成9年1月17日付）
- イ. 登録規程の変更（子牛登記料の改定）の承認（平成9年3月27日付）

3. 事業成績

(1) 会員の状況

本年度の正会員数は、対前年比4.3%減の5,458名であった。各道県支部別の会員数は表1の通りである。また、賛助会員は表2に示した。

表1 正会員数

	道県別	本年度会員数	前年度会員数	道県別	本年度会員数	前年度会員数
	北海道	201名	226名	静岡	3名	3名
※	青森	1	1	長崎	153	200
※	岩手	25	20	対馬	135	134
	秋田	283	352	熊本	4,643	4,744
	宮城	14	23	合計	5,458	5,703

※は支部未設置県

表2 賛助会員数

道県別	本年度会員数	前年度会員数	道県別	本年度会員数	前年度会員数
北海道	8名	0名	長崎	10名	0名
秋田	10	0	対馬	10	0
東京	3	0	熊本	131	0
茨城	1	0	宮崎	1	0
福岡	1	0			0
佐賀	2	0	合計	177	0

(2) 登録事業

前年度において過去最低の水準まで落ち込んだ登録登記頭数は、本年度においても依然として低迷状態は続いている。しかし、子牛価格の安定から、地域によっては雌牛の保留や導入に対する意欲が現れてきたことから、減少傾向にも歯止めがついたものとみられ、産肉登録と繁殖登録は前年度を幾分上回った。

登録区分別ならびに各道県別頭数は表3の通りである。

表3 道県支部別登録登記頭数

区分 支部別	育種高 等登録	高 等 登 録	産 肉 登 録	繁 殖 登 録	子 牛 登 記	交 雑 登 記	合 計
北海道			1 (4)	206 (218)	1,513 (1,580)		1,720 (1,802)
※ 青 森				0 (3)	1 (2)		1 (5)
※ 岩 手				22 (30)	57 (35)		79 (65)
秋 田				56 (62)	695 (1,015)		751 (1,077)
宮 城				0 (5)	0 (3)	15 (21)	15 (29)
静 岡				12 (2)	5 (1)	0 (2)	17 (5)
長 崎				59 (84)	370 (597)	2 (22)	431 (703)
対 馬				59 (26)	195 (180)	1 (18)	255 (224)
熊 本	57 (77)	59 (67)	87 (74)	1,382 (1,313)	15,383 (15,757)	942 (500)	17,910 (17,788)
計	57 (77)	59 (67)	88 (78)	1,796 (1,743)	18,219 (19,170)	960 (563)	21,179 (21,698)
前年比 %	74.0	88.1	112.8	103.0	95.0	170.5	97.6

注:()内数字は前年度頭数、※は支部未設置県を示す。

(3) 育種事業

- ① 国、県が事業主体になって推進している肉用牛群改良基地育成事業に積極的に協力し、候補種雄牛の能力調査、基礎雌牛の選定など優良種畜の選抜、ならびに不良形質の除去対策などに取り組んだ。
- ② 間接検定、現場検定及び一般の肥育成績を調査し、得られたデータについて分析、育種改良の基礎資料とした。
- ③ 超音波測定器による肉質形質の調査及び育種改良への応用
候補種雄牛、繁殖基礎雌牛の選抜利用法の確立のために超音波測定による肉質の診断を実施した。

(4) 普及指導事業

- ① 全国あか牛振興研究大会の開催
平成8年11月21日～22日、長崎県島原市、深江町
参加者 約280名
登録協議会、各県の情勢報告
あか牛振興意見発表会（北海道、秋田県、岩手県、長崎県、熊本県より発表）
超音波診断技術実習（講師＝宮崎大学農学部 原田宏助教授）
審査実習、繁殖農家、肥育農家の現地研修
- ② 各県支部が主催した研究会、研修会等に協力すると共に、担当者を派遣し指導に努めた。

(5) 組織対策事業

支部の活動及び会員の各種会合等に対して協力し、組織の強化に努めた。

(6) 刊行事業

機関誌『あか牛』第69号を刊行した。

(7) 表彰事業

- ① 各種共進会に対し、それぞれ副賞を贈呈して上位入賞牛を表彰した。
- ② 特別功労牛の表彰

(8) 受託事業

① 計画交配推進調査事業（熊本県委託）

肉用牛群改良基地育成事業の補完的な事業として、基礎雌牛の選抜、超音波測定、血統分析、繁殖成績等の特性や能力を調査し、計画交配の推進に努めた。

また異常形質の発生状況について調査し原因究明に努めるとともに、DNAを用いた遺伝性疾患解析の勉強会を開催し最新の情報収集に努めた。

計画交配の研修会を開催した。

② 家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団委託）

登録関係データのコンピュータ処理を中心に、改良体制整備事業を実施した。

③ 優良肉用牛資源有効活用促進事業（全国肉用牛協会委託）

優良肉用牛資源有効活用促進事業（農畜産業振興事業団の指定助成事業）の中の、育種資源確保対策事業の改良増殖推進型に係る優良雌牛選定基準の指針の策定等について事業を実施した。

品種別選定基準検討会 平成8年8月30日（熊本県畜産会館）

同 平成9年3月10日（同）

〔指針〕

- ア. 改良の基本は登録事業であるので、選定にあたっては登録、登記証明書を有する血統明らかなものとする。
- イ. あか牛の最大の特長は発育性にある。産肉能力の面からみると、増体性についてはほぼ満足しうる水準に達しているので、今後は肉質面での向上と斉一化を図ることが重要である。
- ウ. 父牛の選定についてはすぐれた増体性と肉質を兼備したものとし、産肉能力検定成績がすぐれたものとする。
- エ. 母牛については、繁殖性と哺育性にすぐれ、さらに肉質面においても平均レベル以上の能力を備えたものとする。そのためには、産肉情報がすでに得られたもので、育種価による選抜が望ましい。
- オ. 超音波による選抜を積極的に取り入れていく。
- カ. 育種高等登録牛、産肉登録牛の産子は選定にあたって優先する。

④ 地方特定品種緊急総合活性化対策事業（熊本県畜産物価格安定基金協会委託）

あか牛について、近年熊本県で造成された肉質がすぐれた種雄牛を、計画的に交配することにより、その産子を効率的に選抜し、あか牛の肉質向上を緊急に推進することを目的として、優良あか牛の生産指導、優良あか牛の選抜及び認定等の事業を実施した。

なお、各事業の実施にあたっては、熊本県内の各郡支部に再委託して実施した。

ア. 優良あか牛の生産指導講習会開催

イ. 優良あか牛のグループ育成事業

ウ. 優良あか牛の選抜・認定

⑤ 肉用牛改良・生産組合活動実態発表会（地方競馬全国協会、全国肉用牛協会委託）

平成8年11月21日～22日（長崎県深江町、町民センター）

発表者 長崎県加津佐町 太田 寿（豊作はまずあか牛を飼ってから）

同 豊玉町 梅野寅雄（豊玉町におけるあか牛の振興と

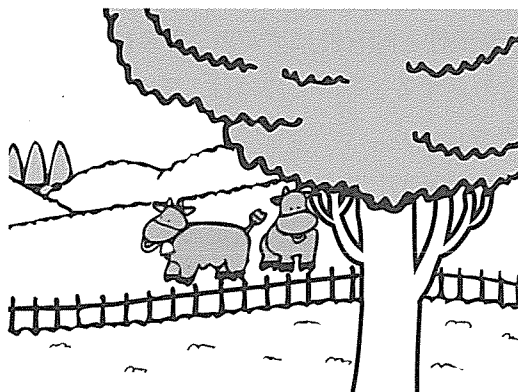
同志会の活動について）

熊本県中央町 明石良生（あか牛とともに生きる）

秋田県鷹巣町 佐藤知昭（我が家のあか牛たち）

岩手県川井村 高館 薫（これからのあか牛生産振興に挑むにあたって）

北海道木古内町 山瀬 薫（若さでチャレンジするあか牛の里づくり）



平成9年度 事業計画書

1. 概況

ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づく関税率の再引下げ（44.3%）や、前年度から尾をひいている狂牛病問題、大腸菌による食中毒事件、さらに台湾で発生し猛威をふるっている口蹄疫など、わが国の畜産は内外からの大きな脅威にさらされている。

このような情勢の中で、あか牛は子牛価格の好転により一部に繁殖雌牛の保留や導入意欲がみられるものの、全体としては飼養農家の高齢化と後継者不足によって飼養頭数の減少はなお続いている。

本会は会員数や登録頭数の減少からくる収入不足によって、財政的には窮地にたたさされており、協会の正常な運営が難しくなったことから、本年度は会員各位の理解のもとにやむなく会費及び子牛登記料を改定し新しい料金体系をとるとともに、定款を変更して役員数を削減する等の組織体系の縮減や、その他の支出の節減によって協会の再建を進めることにした。

国産牛肉が見直されている中で、あか牛の評価が日増しに高まってきているので、本年度は、さらに登録事業を中心として改良増殖を推進する一方で、PR活動にも全力を傾注していきたい。

以下は、本年度の主な事業内容である。

2. 会員数

本年度は下記の会員確保を目標として諸事業を推進する。

正会員	5,500名
賛助会員	200名

3. 登録事業

(1) 登録頭数の低迷状態はいぜんとして続いているが、前年度において一部に繁殖雌牛の保留意欲が出てきたので、本年度は下記の頭数を目標として、さらに登録事業の重要性を強調しながら諸事業を推進する。

(2) 年度内に5頭以上の登録を受審した会員を対象とする登録牛多頭化奨励金制度は、本年度も継続実施する。

(3) 目標頭数	育種高等登録	80頭	(57頭)
	高等登録	80頭	(59頭)
	産肉登録	100頭	(87頭)
	繁殖登録	2,010頭	(1,786頭)
	子牛登記	18,000頭	(18,219頭)
	交雑登記	500頭	(960頭)

注:かっこ内は前年度の実績

4. 育種改良事業

- (1) 肉用牛改良効率向上推進事業等の種畜選抜事業に対しては、関係機関と連携をとりながら、優良種畜の選抜及び不良形質の淘汰など育種改良事業を推進する。
- (2) 産肉能力検定事業等の推進、現場情報による産肉性の調査、データ分析を通して優良系統を選抜する。さらに、現行の検定方法についての見直しを進める。
- (3) 受精卵移植技術、体外受精技術等の新技術に対する取り組みについても継続実施する。
- (4) 超音波検査による優良肉質素材牛の選抜などは継続実施する。

5. 普及指導事業

- (1) 全国あか牛研究会の開催（熊本県、11月）
- (2) 各支部主催の研究会、講習会に対する協力

6. 刊行事業

- (1) 機関誌「あか牛」とその他の改良資料の発行。
- (2) PR用パンフレット等の印刷・配布

7. 表彰事業

- (1) 共進会、共励会での優秀牛の表彰
- (2) 特別功労牛の表彰
- (3) 登録功労者、優良農家（団体）の表彰

8. 補助事業、受託事業

- (1) 肉用牛改良・生産組合活動実態発表会開催事業（地全協、全国肉用牛協会）
- (2) 優良肉用牛資源有効活用促進事業（全国肉用牛協会）
- (3) 家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団）
- (4) 計画交配推進調査事業（熊本県）
- (5) 地方特定品種活性化事業（熊本県、全国肉用牛協会）

平成 8 年 度 収 支 計 算 書

収入総額 64,162,734 円

支出総額 66,955,761 円

平成8年 4月 1日から
平成9年 3月31日まで

収 入 の 部				
科 目	予 算 額 円	決 算 額 円	差 異 円	備 考
(款 項 目)				
1. 会 費	8,230,000	6,891,500	1,338,500	
正会員会費	7,800,000	6,607,900	1,192,100	1,300円× 5,083名
賛助会員会費	430,000	283,600	146,400	1,300円× 172名 10,000円× 6口
2. 登 録 料	45,885,000	35,893,900	9,991,100	
育種高等登録料	800,000	540,000	260,000	10,000円× 54件
高等登録料	640,000	448,000	192,000	8,000円× 56件
産肉登録料	800,000	688,000	112,000	8,000円× 86件
繁殖登録料	12,180,000	10,134,000	2,046,000	18,000円×10件(雄) 6,000円× 1,659件
月齢超過料	155,000	69,750	85,250	1,550円× 45件
子牛登記料	31,000,000	23,228,300	7,771,700	1,550円×14,986件
交雑登記料	310,000	785,850	△ -475,850	1,550円× 507件
3. 証 明 料	577,500	284,500	293,000	
移動証明料	500,000	224,500	275,500	500円× 449件
再交付料	52,500	31,500	21,000	1,050円×30件
書換料	25,000	28,500	△ -3,500	500円×57件
4. 超音波検査料	100,000	0	100,000	500円× 400件
5. 雑 収 入	590,997	403,477	187,520	
雑収入	570,997	391,477	179,520	
刊行物頒布代	10,000	12,000	△ -2,000	
寄付金収入	10,000	0	10,000	
6. 積立金取崩収入	1,270,000	1,260,738	9,262	特別積立金取崩し
7. 受 託 金	11,500,000	12,324,000	△ -824,000	全国肉用牛協会 地全協、熊本県 家畜改良事業団
8. 特別負担金収入	6,800,000	6,896,116	△ -96,116	熊本県支部より
当期収入合計 (A)	74,953,497	63,954,231	10,999,266	
前期繰越収支差額	208,503	208,503	0	
収 入 合 計 (B)	75,162,000	64,162,734	10,999,266	

支 出 の 部					
科 目		予 算 額 円	決 算 額 円	差 異 円	備 考
(款 項 目)					
1 管理事務費		21,340,000	20,050,272	1,289,728	
1. 人 件 費		16,100,000	15,942,125	157,875	専任2名 臨時1名 本俸, 諸手当, 賞与 社会保険事業主負担分
	役 員 旅 費	500,000	166,800	333,200	
	給 料 手 当	13,800,000	13,921,600	△ -121,600	
	福 利 厚 生 費	1,700,000	1,853,725	△ -153,725	
	旅 費 交 通 費	100,000	0	100,000	
2. 事 務 費		3,940,000	2,782,416	1,157,584	
	消 耗 品 費	100,000	86,626	13,374	
	通 信 運 搬 費	200,000	173,879	26,121	
	印 刷 費	50,000	0	50,000	
	事 務 機 リー ス 料	100,000	58,710	41,290	
	賃 借 料	1,210,000	1,205,352	4,648	
	光 熱 水 料 費	150,000	123,661	26,339	
	車 輛 費	100,000	0	100,000	
	租 税 公 課	1,000,000	424,900	575,100	
	保 險 料	80,000	36,850	43,150	
	負 担 金	450,000	445,000	5,000	
	雑 費	500,000	227,438	272,562	
3. 会 議 費		1,300,000	1,325,731	△ -25,731	
	役 員 会 費	800,000	904,619	△ -104,619	理事会2回
	総 会 費	500,000	421,112	78,888	

2 事業費		13,500,000	15,015,814	△ -1,515,814	
	1. 登録事業費	400,000	262,070	137,930	
	2. 普及事業費	800,000	353,720	446,280	
	3. 刊行事業費	400,000	488,220	△ -88,220	機関誌『あか牛』
	4. 褒賞費	400,000	144,200	255,800	
	5. 受託事業	11,500,000	13,767,604	△ -2,267,604	
	計画交配推進 調査費	1,500,000	1,320,000	180,000	熊本県
	改良体制整備費	700,000	878,212	△ -178,212	家畜改良事業団
	肉用牛優良資源 活用促進事業	4,300,000	3,201,477	1,098,523	全国肉用牛協会
	地方特定品種 緊急活性化事業	3,000,000	6,651,479	△ -3,651,479	熊本県畜産物価格 安定基金協会
	肉用牛改良生産 活動発表会事業	2,000,000	1,716,436	283,564	全国肉用牛協会 (地全協)
3. 支部交付金		37,700,500	29,889,675	7,810,825	
	会費支部交付金	3,900,000	3,488,200	411,800	各県支部への 交付金
	登録料支部交付金	33,459,500	26,233,300	7,226,200	
	証明料支部交付金	341,000	168,175	172,825	
4. 積立金		2,000,000	2,000,000	0	
	職員退職給与 積立金	2,000,000	2,000,000	0	
5. 予備費		621,500	0	621,500	
当期支出合計 (C)		75,162,000	66,955,761	8,206,239	
当期収支差額 (A)-(C)		△ -208,503	△-3,001,530	2,793,027	
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	△-2,793,027	2,793,027	

平成9年度 収支予算書

収入総額 95,504,000 円

支出総額 95,504,000 円

平成 9年 4月 1日から
平成 10年 3月31日まで

収 入 の 部					
科 目		本年度予算額 円	前年度予算額 円	増 減 円	備 考
(款 項 目)					
1. 会 費		9,740,000	8,230,000	1,510,000	
	正会員会費	9,320,000	7,800,000	1,520,000	1,600円× 5,500名 1,300円× 400名 1,600円× 200名 10,000円× 10 口
	賛助会員会費	420,000	430,000	△ -10,000	
2. 登 録 料		61,630,000	45,885,000	15,745,000	
	育種高等登録料	800,000	800,000	0	10,000円× 80件
	高等登録料	640,000	640,000	0	8,000円× 80件
	産肉登録料	800,000	800,000	0	8,000円× 100件
	繁殖登録料	12,180,000	12,180,000	0	18,000円×10件(雄) 6,000円× 2,000件
	月齢超過料	155,000	155,000	0	1,550円× 100件
	子牛登記料	45,335,000	31,000,000	14,335,000	2,200円×18,000件 1,550円× 3,700件
	交雑登記料	1,720,000	310,000	1,410,000	2,200円× 500件 1,550円× 400件
3. 証 明 料		307,500	577,500	△ -270,000	
	移動証明料	250,000	500,000	△ -250,000	500円× 500件
	再交付料	52,500	52,500	0	1,050円×50件
	書換料	5,000	25,000	△ -20,000	500円×10件
4. 超音波検査料		50,000	100,000	△ -50,000	500円× 100件
5. 雑 収 入		499,527	590,997	△ -91,470	
	雑 収 入	479,527	570,997	△ -91,470	
	刊行物頒布代	10,000	10,000	0	
	寄付金収入	10,000	10,000	0	
6. 積立金取崩収入		0	1,270,000	△ -1,270,000	特別積立金取崩し
7. 積立金運用収入		10,000	0	10,000	
8. 受託金収入		19,060,000	11,500,000	7,560,000	地全協、熊本県 家畜改良事業団
9. 特別負担金収入		7,000,000	6,800,000	200,000	熊本県支部より
当期収入合計 (A)		98,297,027	74,953,497	23,343,530	
前期繰越収支差額		-2,793,027	208,503	△ -3,001,530	
収 入 合 計 (B)		95,504,000	75,162,000	20,342,000	

支 出 の 部				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
(款 項 目)	円	円	円	
1 管理事務費	22,290,000	21,340,000	950,000	
1. 役員費	500,000	500,000	0	
2. 職員費	16,500,000	15,600,000	900,000	
給料手当	14,000,000	13,800,000	200,000	専任2名 12か月分 本俸, 諸手当, 賞与
臨時雇賃金	500,000	0	500,000	
福利厚生費	1,900,000	1,700,000	200,000	社会保険事業主負担分
旅費交通費	100,000	100,000	0	
3. 事務費	3,940,000	3,940,000	0	
消耗品費	100,000	100,000	0	事務用品代
通信運搬費	200,000	200,000	0	
印刷費	100,000	50,000	50,000	
事務機リース料	100,000	100,000	0	コンピュータ, コピー リース代
賃借料	1,210,000	1,210,000	0	事務所, 駐車場
光熱水料費	130,000	150,000	△ -20,000	
車輛費	50,000	100,000	△ -50,000	
租税公課	1,100,000	1,000,000	100,000	消費税他
保険料	50,000	80,000	△ -30,000	
負担金	450,000	450,000	0	中畜, 肉用牛協会 技術協会他
雑費	450,000	500,000	△ -50,000	
4. 会議費	1,350,000	1,300,000	50,000	
役員会費	850,000	800,000	50,000	
総会費	500,000	500,000	0	

2 事業費		19,950,000	13,500,000	6,450,000	
	1. 育種改良登録事業費	500,000	400,000	100,000	
	2. 普及事業費	900,000	800,000	100,000	全国研究会
	3. 刊行事業費	450,000	400,000	50,000	
	4. 褒賞費	400,000	400,000	0	
	5. 受託事業	17,700,000	11,500,000	6,200,000	
	計画交配推進調査費	1,300,000	1,500,000	△ -200,000	熊本県
	改良体制整備費	600,000	700,000	△ -100,000	家畜改良事業団
	肉用牛優良資源活用促進事業	5,000,000	4,300,000	700,000	全国肉用牛協会 (前年度事業分 100万を含む)
	地方特定品種緊急活性化事業	9,000,000	3,000,000	6,000,000	熊本県安定基金協会 (前年度事業分 100万を含む)
	肉用牛改良生産活動発表会事業	1,800,000	2,000,000	△ -200,000	全国肉用牛協会 (地全協)
3. 支部交付金		49,923,000	37,700,500	12,222,500	
	会費支部交付金	3,900,000	3,900,000	0	各県支部への交付金
	登録料支部交付金	45,844,000	33,459,500	12,384,500	
	証明料支部交付金	179,000	341,000	△ -162,000	
4. 積立金		2,800,000	2,000,000	800,000	
	職員退職給与積立金	2,800,000	2,000,000	800,000	
5. 予備費		541,000	621,500	△ -80,500	
当期支出合計 (C)		95,504,000	75,162,000	20,342,000	
当期収支差額 (A)-(C)		2,793,027	△ -208,503	3,001,530	
次期繰越収支差額(B)-(C)		0	0	0	

(注) 1. 借入金最高限度額は300万円

○ 育種高等登録成績

平成5年度から平成8年度までに育種高等登録に合格したものは下記の通りです。

登録番号	名 号	※ 能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 1	まるなみ	90	玉 波 (高 70)	は る (高 1,760)	A 5 (第二重光) 86.6	熊本県阿蘇郡長陽村 塚本 秀 典
育高 2	しげまる	90	第十重川 (高 65)	たいよう (1級58,606)	A 5 (第三光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡長陽村 西村 光 行
育高 3	えいこ	90	第三蘇殖 (1級 507)	さかえ (1級17,244)	A 5 (第十光丸) A 4 (波 丸) 87.2	熊本県阿蘇郡長陽村 今村 武 博
育高 4	みつふじ	91	光 武 (高 58)	第五ふじ (高 1,611)	B 5 (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡久木野村 坂田 文 雄
育高 5	第二なみ	91	波 丸 (高 74)	な み (1級28,965)	A 5 (第三光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 川部 善 一
育高 6	ふくとみ	90	福 童 (高 57)	ゆきはな (高 1,486)	A 5 (第三光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 阿南 捷 光
育高 7	ゆみこ	95	蘇 幸 (1級 480)	ゆ み (高 2,187)	A 5 (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡蘇陽町 甲斐 利 徳
育高 8	めいすい	93	第十重川 (高 65)	まるさかえ (1級48,571)	A 5 (重 隆) 87.0	熊本県阿蘇郡蘇陽町 後藤 立 士
育高 9	かずあき	90	重 金 (1級 441)	ふくかず (1級39,407)	A 5 (波 丸) 85.5	熊本県阿蘇郡白水村 荒牧 秀 敏
育高 10	たつみや	96	第十重川 (高 65)	なみはま (1級53,618)	A 5 (第三光丸) A 4 (第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 梅田 修
育高 11	よしまる	91	玉 波 (高 70)	は な (1級34,801)	A 5 (波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 田上 末 春
育高 12	なかしま	94	光 丸 (高 69)	きよみ (高 1,566)	A 5 (第三光丸) A 5 (第三光丸) 86.0	熊本県菊池郡大津町 西本 政 弘
育高 13	第三うめ式	90	第二初玉 (特級 31)	第六うめ (高 3,055)	A 4 (第三光丸) B 4 (第三光丸) 88.0	熊本県菊池郡大津町 川俣 靖 昭
育高 14	みつさくら	94	第二重光 (高 86)	第三さくら (高 3,466)	☆☆ (波 丸) 88.0	熊本県上益城郡矢部町 村上一 人
育高 15	第一ふくまる	90	球 月 (特級 47)	ふくまる (1級43,494)	A 5 (第八光武、波 丸) A 4 (第八光武) 85.0	熊本県阿蘇郡西原村 西原公共育成牧場
育高 16	みこと	91	第二光泉 (高 66)	なつひめ (1級75,065)	A 5 (光重川) 85.3	熊本県菊池郡大津町 東 弘 仁
育高 17	ふじこ	91	光 武 (高 58)	ふじまる (1級71,871)	B 5 (波 丸) A 4 (第三光丸) 85.1	熊本県阿蘇郡西原村 渡辺 一 喜
育高 18	まこと	90	第十重川 (高 65)	せいはる (1級68,832)	A 5 (第三光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 高木 二三男
育高 19	よしひめ	91	第二十八重川 (特級 26)	第一さかえ (特級 359)	B 5 (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 岡村 良 子
育高 20	しげのぶ	90	第十重川 (高 65)	ふくみつ (1級56,104)	A 5 (第八光武) 85.8	熊本県阿蘇郡白水村 後藤 達 雄
育高 21	や す	93	第十重川 (高 65)	第一やす (高 2,939)	A 5 (第三光丸) 86.2	熊本県阿蘇郡高森町 安方 康 美
育高 22	ふくつき	92	光 武 (高 58)	ふく三 (1級55,986)	A 4 (第二重光) A 4 (第一草福) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 白石 豊
育高 23	めいこう	91	球 月 (特級 47)	第二たかはな (特級 5,121)	A 5 (第三光丸) 85.1	熊本県阿蘇郡高森町 白石 民生
育高 24	第二しげみ	90	竜 花 (高 23)	第一しげみ (1級32,785)	A 4 (光 誉) A 4 (波 丸) 85.3	熊本県阿蘇郡高森町 野尻 健 一
育高 25	しげみつ	90	第十重川 (高 65)	みどり (特級 1,064)	A 5 (吉 武) 86.3	熊本県阿蘇郡高森町 白石 政 雄

※ 能力得点とは、平均分娩間隔(20)、産子の得点(40)、本牛の得点(40)の割合で、別に定める繁殖雌牛能力評価基準に基づいて計算して得られた得点です。

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 26	第十七ぼまれ	92	第十重川 (高 65)	第五ぼまれ (高 2,193)	A 5 (第三光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 川 部 喜 一
育高 27	くさゆう	92	重 豊 (特級 44)	よしくさ (高 775)	A 5 (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 吉 男
育高 28	き く	92	第十重川 (高 65)	さかえ (1級53,620)	A 4 (波 丸) A 4 (波 丸) 86.2	熊本県阿蘇郡蘇陽町 甲 斐 敬 士
育高 29	としはな	90	竜 花 (特級 27)	としき (高 2,874)	A 5 (波 丸) ☆ (第三光丸) 84.0	熊本県阿蘇郡白水村 長 野 拾 喜
育高 30	たかこ	94	第二光丸 (特級 22)	さかえ (1級46,070)	☆☆ (波 丸) 86.7	熊本県上益城郡甲佐町 佐 藤 逸 雄
育高 31	さくら	90	第十重宝 (特級 25)	たまかわ (1級63,744)	A 5 (重波一) 85.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 本 田 小 一
育高 32	ひめさかえ	92	第一重川 (1級 517)	やささかえ (特級 4,250)	B 5 (重玉波) 87.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 葦 原 孝 光
育高 33	はるさかえ	91	玉 波 (高 70)	さかえ二 (特級 4,157)	A 5 (玉 雄) 86.6	熊本県阿蘇郡阿蘇町 山 本 三 三
育高 34	きくよ	92	光 泉 (1級 568)	きくひめ (1級43,307)	A 5 (波 丸) 87.6	熊本県鹿本郡鹿本町 田 代 良 起
育高 35	しんまる	95	第三光丸 (高 71)	ま り (特級 4,056)	B 5 (波 丸) 88.0	熊本県鹿本郡鹿央町 深 川 義 次
育高 36	のぶたか	91	第十重川 (高 65)	しげたか (1級40,781)	A 5 (第三光丸) 83.0	熊本県鹿本郡菊鹿町 宮 崎 生 男
育高 37	はつたま	90	光 丸 (高 69)	みつひさ (1級25,762)	A 5 (菊重川、波丸) B 4 (波丸、波丸) 85.1	熊本県鹿本郡植木町 境 野 尊 男
育高 38	第二しげとし	94	初 宝 (高 62)	しげとし (1級68,272)	A 5 (光 誉) A 4 (第21重川) 85.3	熊本県鹿本郡鹿北町 太田黒 鐵 郎
育高 39	まるふじ	90	第三光武 (特級 19)	まるふく (1級70,315)	A 4 (重 隆) A 4 (波 丸) 85.6	熊本県菊池郡大津町 古 庄 広 継
育高 40	第四たま	90	第十三重川 (特級 9)	第三たま (高 2,019)	☆ (波 丸) ☆ (波 丸) 86.0	熊本県上益城郡甲佐町 一 村 吉 勝
育高 41	さくら72	90	竜 花 (特級 23)	はつひめ (特級 1,564)	A 5 (第五球光、第十重川) A 4 (光武、第十光丸) 85.3	熊本県阿蘇郡小国町 原 山 寅 雄
育高 42	ひろみ	94	第十重川 (高 65)	ま り (1級51,164)	B 4 (第一草福) B 4 (波 丸) 87.0	熊本県菊池郡大津町 中 畠 豊
育高 43	第二みはる老 柳	91	光 武 (高 58)	第二みはる老 (高 3,118)	A 4 (光重川) ☆☆ (第二光泉) 86.0	熊本県菊池郡大津町 光 永 憲 夫
育高 44	おしん	91	第十重川 (高 65)	と し (1級65,742)	B 5 (波 丸) A 4 (第三 光丸、第十光丸) 85.4	熊本県阿蘇郡長陽村 田 中 武 敏
育高 45	ま る	90	第二光泉 (高 66)	よしまる (1級47,224)	A 4 (第十重川) A 4 (重 南) 83.6	熊本県阿蘇郡長陽村 村 上 敏 昭
育高 46	みつしげ	91	第十重川 (高 65)	みつたけ (1級22,384)	A 4 (重 南) A 4 (第三光丸) 86.4	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 健 也
育高 47	第二てつよ	93	光 武 (高 58)	てつよ (高 2,462)	A 4 (福重川) A 4 (波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡久木野村 荒 牧 健 吾
育高 48	しもやま	90	第二光泉 (高 66)	ゆうかぜ二 (高 3,590)	A 4 (第八光武) A 4 (第八光武) 86.3	熊本県阿蘇郡蘇陽町 後 藤 イマ子
育高 49	みやたけ	91	光 武 (高 58)	ふくみや (1級58,511)	A 4 (第三重川) A 4 (第十重川) ☆ 86.2	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 福 男
育高 50	みやつき	90	蘇 月 (高 35)	みつよし (1級40,104)	A 5 (第三光丸) 85.1	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 豊

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 51	第四くにさかえ	91	第二光丸 (特級 22)	くにさかえ (高 1,857)	A 5 (第三光丸) 86.6	熊本県阿蘇郡高森町 小 島 一 心
育高 52	ま る	95	光 丸 (高 69)	ひめまる (特級 643)	☆☆(波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 岡 部 義 武
育高 53	よしみつ	90	光 丸 (高 69)	はるえ (1級44,955)	☆☆(第八光武) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 福 本 サヨ子
育高 54	第二さくら	90	第十重川 (高 65)	第13やまざくら (高 2,775)	☆☆(第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 山 田 金 光
育高 55	第三いみる	91	蘇 幸 (1級 480)	第二いみる (1級53,470)	A 4 (光重川) A 4 (第十光丸) 85.3	熊本県阿蘇郡高森町 勝 木 忠 男
育高 56	第一ますみ	93	第十重川 (高 65)	はつみ (高 4,071)	A 5 (第三光丸) 85.5	熊本県阿蘇郡久木野村 羽 田 次 雄
育高 57	ひかり一	90	第十重川 (高 65)	くにひかり (1級54,673)	A 5 (第十光丸) 83.1	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 栄 一
育高 58	みついずみ	92	第二光泉 (高 66)	はまいずみ (高 3,799)	A 5 (波 丸) 85.8	熊本県阿蘇郡高森町 津 留 桂 司
育高 59	たかくに	91	重 隆 (特級 68)	くにひさ (高 1,923)	A 5 (第十光丸) 86.0	熊本県下益城郡低用町 米 田 逸 雄
育高 60	きりはな	91	第六重宝 (特級 4)	第3きりしま (1級66,387)	A 5 (光 福) A 4 (第五光丸) 85.0	熊本県菊池郡大津町 国 武 崇 昭
育高 61	た け	91	第十重川 (高 65)	第二みつひめ (特級 1,069)	A 5 (第三光丸) 86.0	熊本県菊池郡七城町 神 尾 桂 一
育高 62	第一ひかり	91	重 藤 (特級 33)	ひかり (1級67,426)	A 5 (第十光丸) 85.0	熊本県上益城郡甲佐町 福 永 精 一
育高 63	くにいずみ9	94	第二光泉 (高 66)	くにぼり (1級26,760)	A 4 (第三光丸、第三光丸 光 誉) 88.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 小 野 秋 義
育高 64	はるこ	90	春 玉 (高 44)	ちとせ (1級40,301)	A 5 (重 雄) 85.8	熊本県阿蘇郡阿蘇町 川 瀬 義 輝
育高 65	としさかえ	92	第六重宝 (特級 4)	しげはる (1級47,056)	A 4 (荻重川) ☆☆(第三重波) 87.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 中 島 年 治
育高 66	ふくたま	90	第二十八重川 (特級 26)	ふくささ (1級61,998)	A 5 (重 武) 86.0	熊本県阿蘇郡一の宮町 家 人 宝
育高 67	みちふじ	90	波 丸 (高 74)	しんりゅう (1級66,664)	A 4 (第三光丸) ☆ (第三光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 村 上 源 喜
育高 68	ふくなか	90	第三重川 (高 61)	しげなか (高 2,279)	A 4 (第十光丸) ☆☆(第三光丸) 88.0	熊本県阿蘇郡高森町 矢 津 田 郭 富
育高 69	はるまつ	91	光重川 (高 73)	はるみ (産肉 124)	A 4 (第三光丸) ☆ (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 矢 津 田 剛
育高 70	としはな	92	光 武 (高 58)	としふく (1級40,103)	B 4 (波 丸) B 4 (波 丸) 86.5	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 年 男
育高 71	いわはる	91	重 晴 (特級 32)	とよひめ (1級70,466)	A 4 (第三光丸) A 4 (第三光丸) 85.5	熊本県阿蘇郡高森町 岩 下 一 夫
育高 72	かずよ	90	第三重川 (高 61)	とみたか (高 2,567)	A 5 (光重E T) 85.5	熊本県阿蘇郡高森町 今 村 助 男
育高 73	しげいみる	90	第十重川 (高 65)	しげかわ (1級60,835)	A 4 (第十光丸) ☆ (第十光丸) 86.5	熊本県阿蘇郡白水村 梅 田 隆 信
育高 74	しげみつ	96	菊重川 (特級 62)	第二しげる (特級 3,966)	A 5 (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 藤 本 ミワ子
育高 75	た か	92	第三光丸 (高 71)	第五たかひめ (特級12,290)	☆☆(第十光丸) 85.1	熊本県阿蘇郡白水村 中 川 徳一郎

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 76	たかつる	94	重 隆 (特級 68)	しげつる三 (特級 3,977)	A 4 (第三光丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 秀 也
育高 77	みつまる	90	第三光丸 (高 71)	ふくまる (2熊 40759)	☆☆ (久 誉) 86.1	熊本県阿蘇郡長陽村 長 野 幸 雄
育高 78	たつみ	92	光 武 (高 58)	なかよし (高 2,478)	A 4 (重 隆) A 4 (重 隆) 85.5	熊本県阿蘇郡西原村 林 田 直 行
育高 79	第一はな	92	第一重川 (1級 517)	一はな (1級34,546)	A 5 (第八光武) 87.1	熊本県阿蘇郡西原村 中 村 辰 則
育高 80	しげはま	90	第十重川 (高 65)	第三はまこ (1級72,155)	A 5 (第三光丸) 87.6	熊本県下益城郡豊野村 石 田 義 明
育高 81	第四さかえ	92	第八光丸 (特級 103)	さかえしげ (特級 8,282)	☆☆ (第十光丸) 87.0	熊本県下益城郡小国町 中 村 健 一
育高 82	まさこ	91	光 丸 (高 69)	ひ め (1級26,121)	A 5 (第十光丸) 85.8	熊本県下益城郡砥用町 宮 田 昭 夫
育高 83	さかえ	93	第十重川 (高 65)	きよみ (1級45,446)	A 5 (第十光丸) ☆ (光重E T) 86.0	熊本県下益城郡城南町 増 井 博 昭
育高 84	こうふく	90	第十重川 (高 65)	くすほし (高 2,012)	B 4 (波 丸) B 4 (波 丸) 86.2	熊本県阿蘇郡西原村 野 口 利 勝
育高 85	ふくかね	92	第十重川 (高 65)	ふくこ (高 2,284)	A 5 (波 丸) A 4 (第十光丸) 87.0	熊本県菊池郡大津町 阪 田 和 美
育高 86	ひこはや3	91	第十重川 (高 65)	ともさわ (産肉 101)	☆☆ (第十光丸) 86.0	熊本県玉名郡橋島町 農林水産省熊本牧場
育高 87	まるみ	91	第十重川 (高 65)	ま る (1級47,299)	A 5 (第三光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡長陽村 後 藤 行 男
育高 88	第四はな	92	第四栄豊 (1級 557)	第三はな (特級 274)	A 5 (光 武) 87.0	熊本県阿蘇郡久木野村 脇 坂 三 利
育高 89	ひので三	90	光重川 (高 73)	第二ひので (特級 6,866)	☆☆ (光重E T) 85.3	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 健 一
育高 90	よしむね	91	第十重川 (高 65)	てらさき (1級31,471)	A 4 (第十光丸) A 4 (第八光武) 86.6	熊本県阿蘇郡高森町 岩 下 アヤ子
育高 91	第五うめ	94	第三光丸 (高 71)	う め (特級 3,018)	☆☆ (光重E T) 88.0	熊本県阿蘇郡白水村 梅 田 信 之
育高 92	あ き	90	第三球泉 (高 68)	さつき (1級27,306)	☆☆ (秀 波) 86.0	熊本県球磨郡多良木町 中 村 邦 昭
育高 93	第貳しげみ	90	第二光丸 (特級 22)	しげよ (1級71,367)	A 4 (重 隆) B 4 (第五春玉) 86.6	熊本県菊池郡菊陽町 鹿子木 明
育高 94	第二くにさかえ	90	第十重川 (高 65)	くにさかえ (高 1,857)	A 4 (第三光丸、第八光武 波丸、第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡長陽村 長 野 幹 雄
育高 95	第三はま	90	第十重川 (高 65)	第二はま (1級59,951)	A 4 (波丸、第十光丸) ☆ (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡西原村 田 中 賢 介
育高 96	しげとみ	94	重 豊 (特級 44)	しげやす (高 3,787)	A 4 (光重川) A 4 (光 武) 85.4	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 健 一
育高 97	きんしょう	90	蘇 幸 (1級 480)	きんえい (高 1,575)	☆☆ (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 栗 焼 聖
育高 98	しげこ	94	第十光丸 (高 76)	しげふじ (特級 2,097)	B 4 (波 丸) ☆ (波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 晴 雄
育高 99	と み	91	初 宝 (高 62)	つきとみ (高 2,564)	A 4 (第三光丸) A 4 (第三光丸) 85.8	熊本県阿蘇郡白水村 藤 川 一 士
育高 100	第十さかえ	92	第十重川 (高 65)	第二さかえ (特級 2,657)	☆☆ (波 丸) 90.0	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 和 雄

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 101	はるな	93	第十重川 (高 65)	はるなか (1級21,084)	A 5 (第三光丸) A 4 (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 岩 下 利 吉
育高 102	第8みつえ	91	第十重川 (高 65)	みつえ (高 1,529)	A 4 (第三光丸) B 4 (第三光丸) 85.3	熊本県阿蘇郡高森町 工 藤 ケサミ
育高 103	まつたけ	90	第十重川 (高 65)	まつうめ (1級47,159)	A 4 (光 誉) A 4 (第十光丸) 87.8	熊本県阿蘇郡高森町 後 藤 則 和
育高 104	あざしも	91	第三球泉 (高 68)	第五あざしも (1級34,263)	☆☆(重球磨) 86.0	熊本県球磨郡上村 中 根 清 美
育高 105	えいこ	94	第十重川 (高 65)	もみじ (1級72,052)	B 5 (光 福) A 4 (第十光丸) 88.0	熊本県菊池郡大津町 土 井 浩 昭
育高 106	としひめ	90	重 武 (特級 63)	ふ じ (1級30,366)	A 5 (第三光丸) 86.0	熊本県菊池郡大津町 栗 原 清 行
育高 107	みつひめ	90	重 雄 (特級 75)	はまみつ (特級 2,861)	A 4 (第三光丸) A 4 (第三光丸) 85.0	熊本県菊池郡大津町 上 田 元 子
育高 108	きよはな	95	第十重川 (高 65)	きよらか (高 1,263)	☆☆(第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 松 本 由紀美
育高 109	ふゆる	90	第三重川 (高 61)	いみる (高 1,489)	☆☆(第二重光) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 勝 木 忠 男
育高 110	とうじょう	90	第十重川 (高 65)	みつかわ (特級 952)	A 4 (第三光丸) ☆ (第十光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 城 井 健 吾
育高 111	しらは	91	第十重川 (高 65)	ひろしげ (1級51,052)	☆☆(波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 博 昭
育高 112	第二たかはな	92	第十重川 (高 65)	たかはな (高 2,194)	A 4 (光 誉) A 4 (第三光丸) 85.2	熊本県阿蘇郡高森町 吉良山 一 幸
育高 113	しげつる二	96	第十重川 (高 65)	ふくつる (高 2,463)	☆☆(第三光丸) ☆☆(第三光丸) 90.0	熊本県阿蘇郡高森町 増 田 喜久吉
育高 114	みこう	96	光 武 (高 58)	ぼ け (高 3,231)	☆☆(波 丸) 87.7	熊本県阿蘇郡高森町 古 沢 信 幸
育高 115	第三ひので	94	重 隆 (特級 68)	ひので (特級 3,919)	☆☆(光 武) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 健 一
育高 116	くにひかり	91	第二光丸 (特級 22)	ふくひろ (1級74,002)	☆☆(波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 岩 下 一 夫
育高 117	第十六ほまれ	96	光 武 (高 58)	第十二ほまれ (育高 122)	A 5 (光重E T) ☆ (第三光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 山 室 健 蔵
育高 118	さちはな	90	第三重川 (高 61)	しげかえ (1級41,177)	☆☆(波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 笠 英 横
育高 119	まきお	91	光 武 (高 58)	ま き (1級48,230)	A 5 (波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 甲 斐 堅 一郎
育高 120	第七ほまれ	90	光 武 (高 58)	第一ほまれ (高 900)	☆☆(第二重光) 89.0	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 英 男
育高 121	あきこ	90	第十重川 (高 65)	あきみ (1級56,987)	☆☆(第三光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 木 村 孝 則
育高 122	第十二ほまれ	95	第二光泉 (高 66)	第九ほまれ (高 2,758)	☆☆(光 武) 89.1	熊本県阿蘇郡白水村 山 室 健 蔵
育高 123	第三ふくはる	92	第十重川 (高 65)	は な (高 2,879)	☆☆(波 丸) 86.2	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 格 亮
育高 124	第二しげざく ら	90	第十重川 (高 65)	くすざくら (高 772)	☆☆(第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡久木野村 吉 沢 一 也
育高 125	みゆる	94	第十重川 (高 65)	いずみ (高 2,938)	☆☆(第十光丸) 88.0	熊本県阿蘇郡久木野村 藤 崎 義 則

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 126	第二いずみ	93	第十重川 (高 65)	たけいずみ (高 2,953)	A 4 (第十光丸) ☆☆ (第八光武) 87.0	熊本県阿蘇郡長陽村 古 沢 勝 也
育高 127	ふくはな	91	第二重光 (特級 86)	ふくえい (高 3,425)	A 4 (第十光丸) A 4 (第十光丸) 84.0	熊本県阿蘇郡西原村 東 武
育高 128	しげかね	94	第十重川 (高 65)	は ぎ (特級 2,342)	B 4 (第三光丸) ☆☆ (第八光武) 87.0	熊本県菊池郡大津町 阪 田 和 美
育高 129	第七ありあけ	91	第二十八重川 (特級 26)	ありあけ (高 1,149)	☆☆ (第二重波) 87.0	大分県竹田市 工 藤 武 雄
育高 130	第五まるはな	93	重波 1 (特級 17)	第二まるはな (高 2,862)	☆☆ (光重 E T) 85.8	熊本県阿蘇郡波野村 江 良 孝 一
育高 131	第五たきふじ	90	第二十八重川 (特級 26)	たきふじ (1級46,207)	☆☆ (第五玉波) 85.6	熊本県阿蘇郡阿蘇町 鶴 本 誠次郎
育高 132	みやさかえ	90	第一重川 (1級 517)	ふくみや (1級73,847)	☆☆ (第五玉波) 88.3	熊本県阿蘇郡阿蘇町 佐 藤 申 士
育高 133	よしまる	91	第一重川 (1級 517)	やまえい (特級 1,459)	A 5 (第五玉波) 85.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 大 倉 重 信
育高 134	第二はつきかえ	93	第六重宝 (特級 4)	はつきかえ (高 3,129)	☆☆ (重玉波) 87.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 高 宮 武 則
育高 135	ふくなみ	93	第二重波 (特級 27)	第三しあわせ (1級48,636)	☆☆ (銀星、栄豊一、 重玉波) 87.0	熊本県阿蘇郡一の宮町 高 木 清 浩
育高 136	かねいずみ2	90	第二光泉 (特級 66)	つのはや5 (1級78,848)	A 4 (第三光丸) ☆ (第三光丸) 86.0	熊本県玉名郡横島町 農林水産省熊本牧場
育高 137	はなこ	92	第三球泉 (高 68)	ももえ (特級 315)	☆ (第三光丸) ☆ (波 丸) 87.0	熊本県上益城郡御船町 上 田 隼 人
育高 138	ゆりみつ	91	光 丸 (高 69)	みつゆり (1級68,410)	A 4 (第三光丸) A 4 (光重 E T) 86.0	熊本県下益城郡砥用町 本 田 修
育高 139	はるみ	91	第二光泉 (高 66)	みつとし (高 2,778)	☆☆ (光 福) 85.5	熊本県阿蘇郡西原村 秋 吉 司
育高 140	第二かねまる	92	光 武 (高 58)	かねまる (特級 26)	☆☆ (波 丸) 86.5	熊本県阿蘇郡久木野村 長 崎 幸 徳
育高 141	りょうふく	90	光重川 (高 73)	ひでふく (1級52,224)	A 4 (第十光丸) A 4 (第十光丸) 84.0	熊本県阿蘇郡高森町 野 尻 格
育高 142	式代しげつる	93	第三光丸 (高 71)	第二しげつる (高 3,888)	A 4 (第十光丸) ☆ (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 児 玉 邦 昭
育高 143	ふじなみ	91	光 武 (高 58)	第三さかえ (高 2,786)	A 4 (光重 E T) ☆ (第二重光) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 赤 木 哲 政
育高 144	いしょう	91	第二光丸 (特級 22)	はなまる (2熊19,845)	A 4 (第八光武) B 4 (波 丸) ☆ 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 吉良山 一 昭
育高 145	みぼう	94	第十重川 (高 65)	みこう (育高 114)	A 4 (吉 武) ☆ (第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 古 沢 信 幸
育高 146	第七よしえい	90	光 武 (高 58)	第五よしえい (高 2,097)	☆ (波 丸) ☆ (第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡蘇陽町 穴 見 盛 雄
育高 147	はつひめ	92	第十重川 (高 65)	とよこ (特級 306)	☆☆ (第三光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 木 村 孝 則
育高 148	ま さ	94	第十重川 (高 65)	きみ三 (特級 224)	A 4 (第三光丸) ☆ (第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 正 男
育高 149	はるうめ	91	光 武 (高 58)	ふゆる六 (1級24,518)	A 4 (第三光丸) ☆☆ (第十重川) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 松 岡 栄 記
育高 150	たつなみ	90	光 武 (高 58)	はなみ (産肉 269)	☆☆ (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 安 達 辰 喜

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 151	はるよし	93	第十光丸 (高 76)	はるな (育高 101)	☆☆(光重E T) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 岩 下 利 吉
育高 152	第二ちどり	91	初 宝 (高 62)	第五ちどり (高 1,619)	☆☆(第三光丸) 85.3	熊本県阿蘇郡高森町 相 馬 俊 行
育高 153	つきとよ	90	重 豊 (特級 44)	つきふく (1級36,690)	A 4 (光重E T) ☆ (第三光丸) 85.4	熊本県阿蘇郡高森町 山 室 説 生
育高 154	第一しげたか	92	重 隆 (特級 68)	しげたか (高 2,913)	☆ (第三光丸) ☆ (第十光丸) 87.0	熊本県菊池郡大津町 土 井 浩 昭
育高 155	つるみ	93	光武三 (特級 45)	かつひろ (高 3,470)	☆☆(光 丸) 87.0	熊本県菊池郡大津町 土 井 浩 昭
育高 156	ちゅうぶこう ばい	90	重 隆 (特級 68)	こうばい参 (特級 3,573)	A 4 (波 丸) ☆ (第五春玉) 85.0	熊本県菊池郡菊陽町 上 田 茂 政
育高 157	はなこ	92	光 武 (高 58)	よしはな (特級 1,862)	☆☆(第五春玉) 86.0	熊本県菊陽町郡大津町 上 田 元 子
育高 158	第二ふくひめ	90	第十重川 (高 65)	まるにしき (1級55,053)	A 4 (第三光丸) B 4 (光 福) 83.3	熊本県菊池郡菊陽町 鹿子木 明
育高 159	みつゆう	91	第二初玉 (特級 31)	みつひめ (特級 2,374)	A 4 (第十光丸) ☆ (第八光武) 85.0	熊本県菊池郡大津町 吉 岡 次 雄
育高 160	第二みはる壱	92	第二光丸 (特級 22)	第二みはる (高 3,203)	B 4 (光 誉) ☆ (光 福) 86.0	熊本県菊池郡大津町 光 永 憲 夫
育高 161	みつひめ	92	第六重宝 (特級 4)	みつひめ (1級51,410)	A 4 (第三光丸) ☆☆(波 丸) 85.5	熊本県菊池郡大津町 吉 岡 次 雄
育高 162	は る	93	光 武 (高 58)	さくら (高 3,202)	☆☆(第八光武) ☆ (第八光丸) 88.2	熊本県菊池郡菊陽町 坂 本 孝 一
育高 163	しげよし八	93	蘇 月 (高 35)	しげよし (高 1,092)	☆☆(光 武) 86.3	熊本県菊池郡大津町 月 尾 清 蔵
育高 164	きくはる	91	第三重川 (高 61)	さくら (1級49,840)	A 4 (第三光丸) A 4 (波 丸) 87.0	熊本県菊池市 木 崎 久
育高 165	しげはな	93	光 花 (1級 487)	しげひさ (高 2,197)	☆☆(重波1) 88.7	大分県竹田市 前 田 利 袈
育高 166	かずひめ	91	第一重川 (1級 517)	なみひめ (特級10,930)	☆☆(第四栄豊) 85.4	熊本県阿蘇郡波野村 飛 田 秀 和
育高 167	第三はなまる	97	重 波 (高 48)	はなまる (特級 260)	☆☆(第四栄豊) 86.0	熊本県阿蘇郡波野村 後 藤 敦 男
育高 168	さかみ	94	第十重川 (高 65)	第三さかえ (高 2,786)	☆ (第十光丸) ☆ (第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 赤 木 哲 政
育高 169	みつき	90	第十光丸 (高 76)	たつのり (高 3,878)	☆☆(光重E T) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 矢 津 田 勇 次
育高 170	まみや	92	第十重川 (高 65)	みやたけ (育高 49)	☆☆(第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 福 男
育高 171	第一しげつる	94	竜 花 (特級 23)	しげつる二 (育高 113)	☆ (重 隆) ☆ (重 隆) 87.2	熊本県阿蘇郡高森町 増 田 喜 久 吉
育高 172	ふみえ	91	第二光泉 (高 66)	みつこ (高 2,876)	A 4 (第八光武) ☆ (第八光武) 87.0	熊本県阿蘇郡蘇陽町 佐 藤 啓 夫
育高 173	ひ さ	97	菊重川 (特級 62)	ふくみつ (高 4,040)	☆☆(第八光武) ☆☆(第三光丸) 88.0	熊本県阿蘇郡白水村 桐 原 宣 久
育高 174	み え	90	重 隆 (特級 68)	さかえ (特級 5,176)	☆ (第八光武) ☆ (第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 島 田 和 久
育高 175	きくまる	90	第三光丸 (高 71)	きくはな (1級24,468)	A 4 (波 丸) A 4 (波 丸) 85.1	熊本県阿蘇郡久木野村 渡 辺 勇 雄

登録番号	名号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者	
			父	母			
育高 176	第二ふくりゅう	92	光 武 (高 58)	ふくりゅう式 (1級62,956)	A 4 (第十光丸) ☆☆ (第十光丸)	86.0	熊本県阿蘇郡西原村 大久保 恵 司
育高 177	第二しげふさ式	90	光重川 (高 73)	第二しげふさ (高 4,001)	A 4 (第五春玉) ☆ (第三光丸)	85.0	熊本県阿蘇郡西原村 山 崎 幸 雄
育高 178	みよし	92	第二重光 (特級 86)	いずみ (1級74,797)	☆ (第十光丸) ☆ (第十光丸)	87.0	熊本県下益城郡城南町 増 井 博 昭
育高 179	わかば	90	春 玉 (高 44)	ふくはな (特級 2,448)	A 5 (波丸、第三光丸) A 4 (波 丸)	85.0	熊本県菊池郡泗水町 平 井 義 昭
育高 180	もとまる	92	玉 波 (高 70)	もとひめ (1級32,510)	A 4 (第三光丸) ☆ (第二光丸)	88.0	熊本県菊池市 御 山 浩 三
育高 181	はつみ	91	初 宝 (高 62)	みのる (1級39,504)	☆☆ (光重E T)	86.7	熊本県下益城郡小川町 中 村 親
育高 182	さかえ二	91	第二光泉 (高 66)	さかえ (高 2,649)	☆☆ (第三光丸)	87.0	熊本県下益城郡城南町 藤 田 二三雄
育高 183	いはる	90	白 岩 (高 52)	はるみ (1級69,099)	A 4 (光重川) ☆ (第十光丸)	86.0	熊本県下益城郡松橋町 浦 田 伸 介
育高 184	第一とよさかえ	94	第二十八重川 (特級 26)	とよさかえ (特級 1,022)	A 5 (重玉波) ☆☆ (玉 雄)	86.1	熊本県阿蘇郡阿蘇町 高 橋 忠 治
育高 185	第三とよはる	92	第五光丸 (特級 102)	第九とよはる (1級77,823)	A 5 (波 丸)	86.0	熊本県阿蘇郡一の宮町 岩 永 照 雄
育高 186	な み	90	重 波 (高 48)	第二たかえ (2熊21,177)	☆☆ (銀 星)	86.6	熊本県阿蘇郡阿蘇町 橋 本 清
育高 187	ちまつ	93	第十重川 (高 65)	たまる (高 1,612)	☆ (第三光丸) ☆ (第十光丸)	86.0	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 道 明
育高 188	きりはる	94	初 宝 (高 62)	きりまる (1級40,165)	☆ (第二重光) ☆ (第十光丸)	88.2	熊本県阿蘇郡高森町 松 尾 治 実
育高 189	はるさかえ	94	第二重光 (特級 86)	きりはる (高 3,581)	A 5 (第三光丸) A 4 (第三光丸) ☆	87.0	熊本県阿蘇郡高森町 松 尾 治 実
育高 190	くすかぜ	91	光 丸 (高 69)	くす一 (高 2,772)	A 4 (第十光丸) ☆ (第三光丸)	87.0	熊本県阿蘇郡高森町 矢 津 田 郭 富
育高 191	みずえ	95	第二光丸 (特級 22)	みづえ (高 3,036)	☆☆ (光重E T) ☆ (第十光丸)	88.0	熊本県阿蘇郡高森町 富 永 正 利
育高 192	ゆ め	92	球 月 (特級 47)	ゆきひめ (1級65,712)	A 4 (第十光丸) ☆ (第十光丸)	86.0	熊本県阿蘇郡白水村 中 村 優 二
育高 193	第四はるゆき	95	第二十八重川 (特級 26)	はるはな (高 1,597)	☆☆ (第十光丸) ☆ (第十光丸)	87.0	熊本県阿蘇郡白水村 田 上 昭 則
育高 194	第五さくら	94	光 武 (特級 58)	さくら (高 2,379)	☆ (第三光丸) ☆ (第十光丸)	87.2	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 義 文
育高 195	しげやす	93	第十重川 (高 65)	しげさかえ (1級31,367)	☆☆ (波 丸)	87.3	熊本県阿蘇郡久木野村 古 沢 製 徳
育高 196	第六てつよ	95	光 武 (高 58)	てつよ (高 2,462)	A 4 (第十光丸) ☆ (波 丸)	87.0	熊本県阿蘇郡西原村 荒 牧 はつみ
育高 197	しげつる三	90	第十重川 (高 65)	ふくつる (高 2,463)	☆ (波 丸) ☆ (第二重波)	86.0	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 保 守
育高 198	しげみ	92	第十重川 (高 65)	はつみ (1級28,968)	A 4 (第八光武) ☆ (光 丸)	85.0	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 憲 二
育高 199	ひさこ	91	第十重川 (高 65)	みつとよ (1級72,000)	A 4 (第八光丸) ☆ (第三光丸)	86.0	熊本県阿蘇郡久木野村 後 藤 貞 光
育高 200	第三まさなが	98	光 武 (高 58)	まさなが (高 3,034)	☆ (波丸、波丸、 波 丸)	87.0	熊本県阿蘇郡久木野村 藤 崎 莊 一

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 201	第十三ぼまれ	93	第十重川 (高 65)	第五ぼまれ (高 2,193)	☆ (第十光丸) ☆ (第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡久木野村 岩 下 貞 克
育高 202	は な	94	第二光泉 (高 66)	しげみつ (1級40,064)	A 5 (波丸) A 4 (波丸) ☆ 86.0	熊本県阿蘇郡長陽村 今 村 一 郎
育高 203	はなまる	93	重 豊 (特級 44)	はなひめ (1級76,815)	☆☆ (第五玉波) 87.0	熊本県菊池郡大津町 光 永 憲 夫
育高 204	さ ち	90	初 幸 (1級 610)	さちこ (1級62,406)	A 4 (第十光丸) A 4 (光重E T) ☆ 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 後 藤 昭 博
育高 205	りゅうえい	92	光 武 (高 58)	まさみ (高 2,683)	A 4 (光重E T、光重E T ☆ (波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 田 上 昌 一
育高 206	はまこ	90	第三重川 (高 61)	いみる (1級33,677)	☆ (第十光丸) ☆ (光 武) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 芹 口 秀 吉
育高 207	な み	94	初 宝 (高 62)	は つ (1級44,683)	A 4 (波 丸) A 4 (波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 久
育高 208	とくいち	92	第三光丸 (高 71)	くさゆう (育高 27)	A 4 (波 丸) ☆ (波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 白 石 徳 男
育高 209	はなさかえ	95	竜 花 (特級 23)	よしえい (1級49,728)	A 5 (第三光丸) 89.1	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 英 和
育高 210	ふじいずみ	90	第二光泉 (高 66)	ふじかわ (高 3,042)	☆☆ (第八光丸) ☆ (波 丸) 87.1	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 良 助
育高 211	くさみつ	97	光重川 (高 73)	くさよし (高 1,582)	☆ (第三光丸、光武E T 光武E T) 87.0	熊本県阿蘇郡長陽村 藤 原 節 美
育高 212	第二ふくみつ	94	菊重川 (特級 62)	第五ふくみつ (1級54,680)	☆ (第八光武) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県阿蘇郡西原村 高 橋 啓
育高 213	は ぎ	90	光 丸 (高 69)	こうふく (特級 855)	A 5 (第三光丸) 85.1	熊本県阿蘇郡西原村 中 村 稔
育高 214	第二さかえ	90	初 宝 (高 62)	第一さかえ (1級47,311)	A 4 (第三光丸) ☆ (第三光丸) 86.0	熊本県菊池郡大津町 田 上 稔
育高 215	こうふく	91	第二光丸 (特級 22)	とよふく (高 1,862)	☆☆ (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡西原村 山 本 静 雄
育高 216	なみと	94	第十光丸 (高 76)	なみふく (特級 9,117)	☆☆ (波 丸) 86.0	熊本県下益城郡小川町 辰 井 勝 成
育高 217	はつひかり	93	光重川 (高 73)	はつみ (育高 181)	A 4 (第十光丸) B 4 (第二重光) ☆ 85.0	熊本県下益城郡小川町 中 村 親
育高 218	あきまる	93	第三光丸 (高 71)	あきふく (特級 40)	☆☆ (光重E T) 87.0	熊本県下益城郡小川町 平 岡 勇
育高 219	みねしげ	92	第十重川 (高 65)	あそみね (1級64,924)	A 4 (光 丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県下益城郡砥用町 米 村 憲 一
育高 220	まつ二	90	光 武 (高 58)	まつ一 (高 1,654)	A 5 (光重E T) 85.0	熊本県下益城郡中央町 西 田 誠 也
育高 221	ふじまる	93	第五光丸 (特級 102)	ふじそ (1級58,033)	☆☆ (光重E T) 87.0	熊本県下益城郡砥用町 大 原 幸 二
育高 222	まつに	91	第二重光 (特級 86)	まついずみ (1級83,612)	☆☆ (第三光丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県下益城郡砥用町 村 上 建 富
育高 223	ふくなみ	92	波 丸 (高 74)	ふくはな (特級 6,456)	A 5 (第五玉波) 87.0	熊本県鹿本郡鹿苑町 蒲 島 修
育高 224	第五はるみ	92	第五春玉 (特級 81)	はるみ (1級 3,324)	A 4 (第十光丸) ☆ (第十光丸) 85.0	熊本県球磨郡須恵村 浜 田 武 保
育高 225	第三ひので	90	第十重川 (高 65)	第一さかえ (高 1,757)	A 4 (光重E T) ☆ (波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 琢 雄

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 226	第九ひので	97	波 丸 (高 74)	第一さかえ (高 1,757)	☆☆(光重E T) ☆ (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡高森町 甲 斐 広 国
育高 227	第二さち	94	第二重光 (特級 86)	さ ち (高 3,954)	☆ (波 丸) ☆ (第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 甲 斐 成 美
育高 228	はつひかり	91	光重川 (高 73)	はつざくら (特級 1,157)	☆ (第三光丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 大 塚 浩 一
育高 229	ちくない	90	第二光泉 (高 66)	第一はつまる (1級55,691)	☆☆(第十光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 福 本 エツ子
育高 230	よしやす	90	波 丸 (高 74)	くさよし (高 1,582)	A 4 (第十光丸) ☆ (第三光丸) 85.0	熊本県阿蘇郡久木野村 古 沢 一 也
育高 231	まついち	90	第三重川 (高 61)	さかえいち (産肉 182)	A 4 (重 鶴) B 4 (波 丸) 85.3	熊本県阿蘇郡長陽村 長 野 国 義
育高 232	第二とちはな	90	第十重川 (高 65)	とちはな (高 3,782)	☆☆(光重E T) 85.8	熊本県阿蘇郡長陽村 笠 野 松 喜
育高 233	第二くにあそ	93	第十重川 (高 65)	くにあそ (1級19,674)	A 4 (波 丸) ☆ (波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡長陽村 山 口 達 志
育高 234	しげこ	93	第十重川 (高 65)	やすこ (1級30,556)	A 4 (第十光丸) A 4 (光重E T) ☆☆87.0	熊本県阿蘇郡長陽村 後 藤 馨 子
育高 235	みつえい	92	第十重川 (高 65)	ふくえい (1級31,425)	☆ (第十光丸) ☆ (第六春玉ET) 86.0	熊本県菊池郡大津町 宮 前 公 俊
育高 236	みつふじ	93	第三光丸 (高 71)	第二ふじみ (高 3,300)	A 4 (光重E T) ☆ (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡西原村 柿 田 和 正
育高 237	みゆき	91	第二光丸 (特級 22)	しげたか (特級 2,739)	☆ (吉 武) ☆ (波 丸) 87.0	熊本県下益城郡小川町 湯 上 敏 成
育高 238	みつとみ	94	光重川 (高 73)	第三はつとみ (特級 5,434)	A 4 (吉 武) ☆ (光重E T) 88.4	熊本県下益城郡松橋町 鍛 柄 敬 徳
育高 239	たかゆり	90	重 隆 (特級 68)	めり (特級 7,158)	A 5 (光重E T) 85.0	熊本県下益城郡砥用町 塚 原 武 亨
育高 240	第一ひめいずみ	94	第十重川 (高 65)	ひめいずみ (高 2,834)	A 4 (第十光丸) ☆ (第三光丸) 86.0	熊本県下益城郡砥用町 守 田 実 美
育高 241	第一しげ	91	第四栄豊 (1級 557)	かねふじ (1級 6,928)	☆ (第二重波) ☆ (第五玉波) 87.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 橋 本 清
育高 242	なみしげ	93	第二十八重川 (特級 26)	しげなみ (高 1,665)	A 4 (藤玉波) A 4 (藤玉波) 85.0	熊本県阿蘇郡産山村 鈴 木 健 士
育高 243	な み	90	重 豊 (特級 44)	さくらなみ (1級67,927)	A 5 (玉 雄) 85.5	熊本県鹿本郡鹿町 富 田 聖 輝
育高 244	みつしげ	92	光重川 (高 73)	第五しげみ (高 5,072)	☆☆(波 丸) 86.0	熊本県菊池市 伊 川 幸 人
育高 245	きくゆり	90	第十重川 (高 65)	第一きくみつ (1級58,034)	A 4 (光重E T) B 4 (光重川) 86.5	熊本県下益城郡松橋町 鍛 柄 敬 徳
育高 246	みつひめ	95	光 武 (高 58)	ふくきく (1級23,680)	☆ (第十重川、第二重光 第十光丸) 88.0	熊本県下益城郡松橋町 鍛 柄 敬 徳
育高 247	ふたひめ	92	第三光丸 (高 71)	第一ひめいずみ (育高 240)	☆☆(光重E T) 86.0	熊本県下益城郡砥用町 守 田 実 美
育高 248	のぶたか	95	重 隆 (特級 68)	みつのぶ (高 4,115)	☆☆(第十光丸) 90.0	熊本県下益城郡松橋町 浦 田 伸 介
育高 249	第11さつき	98	白 岩 (高 52)	さつき (1級40,919)	A 4 (光重川) A 4 (光重E T) ☆ 87.0	熊本県下益城郡松橋町 浦 田 伸 介
育高 250	みつこ	99	光 丸 (高 69)	ごだい (高 2,739)	☆ (第十光丸) ☆ (第十光丸) 90.0	熊本県下益城小川町 藤 坂 光 秋

登録番号	名 号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 251	第二みつこ	94	第二十一重川 (1級 587)	みつこ (育高 250)	☆ (第十光丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県下益城郡小川町 藤 坂 光 秋
育高 252	のぶよ	96	第十光丸 (高 76)	のぶたか (育高 248)	☆☆ (光重E T) 86.0	熊本県下益城郡砥用町 松 村 新 二
育高 253	つるひめ	91	重 宝 (高 40)	第三ほまれ (高 850)	A 5 (第二重波) 87.0	熊本県阿蘇郡一の宮町 高 木 照 一
育高 254	第一たま	94	第三光丸 (高 71)	たまさかえ (特級13,189)	☆ (光重E T) ☆ (重 鶴) 87.0	熊本県菊池郡大津町 栗 林 富士夫
育高 255	みさこ	95	第十光丸 (高 76)	さ よ (特級15,825)	A 5 (光重E T) ☆☆ (第二重波) 86.0	熊本県阿蘇郡長陽村 古 沢 勝 也
育高 256	第二しげいずみ	94	第八光武 (特級 40)	第二いずみ (育高 126)	A 4 (波 丸) ☆☆ (光重E T) 86.0	熊本県阿蘇郡長陽村 古 沢 勝 也
育高 257	第十よしえい	93	竜 錦 (特級 6)	第六よしえい (高 2,557)	☆☆ (第八光武) ☆ (第三光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡長陽村 山 口 達 志
育高 258	しげえい	92	菊重川 (特級 62)	せいひめ (特級 34)	A 5 (第三光丸) A 4 (第三光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 足 立 輝 幸
育高 259	ゆりひめ	96	波 丸 (高 74)	きくひめ (特級 8,825)	☆☆ (第三光丸) 88.0	熊本県阿蘇郡白水村 桐 原 美穂子
育高 260	ゆうかぜ六	90	第十重川 (高 65)	第三ゆうかぜ (1級52,278)	B 4 (光 誉) ☆☆ (波 丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 興 梶 範 男
育高 261	第二つぎえい	90	第十重川 (高 65)	第五よしえい (1級31,401)	A 4 (第十光丸) ☆ (第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 大 津 休 三
育高 262	第九ほまれ	95	光 武 (高 58)	ほまれ一 (高 1,490)	A 4 (波 丸) ☆ (第二重光) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 林 龍 男
育高 263	はまのま	90	第二十一重川 (1級 587)	ふくさくら (2熊21,013)	A 5 (重 鶴) A 4 (第十光丸) 85.1	熊本県阿蘇郡白水村 大 津 誠 士
育高 264	しらたけ	90	第八光武 (特級 40)	しげみ (1級79,471)	☆☆ (久 誉) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 大 津 洋 二
育高 265	よしえい	90	光 丸 (高 69)	第六よしえい (高 2,672)	A 4 (重 南) ☆ (光重E T) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 足 立 哲 男
育高 266	第一たつなか	92	第三光丸 (高 71)	たつなか (特級11,893)	A 5 (第十光丸) A 4 (光 誉) ☆ 84.0	熊本県阿蘇郡高森町 竹 内 辰 巳
育高 267	まつはな	92	竜 花 (特級 23)	やまはな (1級33,735)	A 4 (第十光丸) B 4 (重 鶴) 85.6	熊本県阿蘇郡高森町 住 吉 平 男
育高 268	ひろみ	95	第十光丸 (高 76)	ひろとみ (高 3,050)	A 5 (第八光武) A 5 (波 丸) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 安 方 康 美
育高 269	のりこ	94	第十光丸 (高 76)	のりお (特級 3,603)	☆☆ (光重E T) 86.0	熊本県菊池郡大津町 嶋 田 敏
育高 270	まるしげ	93	第二十一重川 (1級 587)	よしあき (特級 3,588)	A 4 (光 丸) A 4 (波 丸) 86.0	熊本県下益城郡中央町 北 村 高 秋
育高 271	ゆうき	92	第三光丸 (高 71)	かずき (特級 2,741)	A 4 (波 丸) ☆☆ (重 鶴) 85.0	熊本県下益城郡中央町 本 田 祐 一
育高 272	な み	91	波 丸 (高 74)	たつなみ (育高 150)	☆☆ (光重E T) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 高 宮 正 敏
育高 273	いちしげ	95	第三光丸 (高 71)	はなまる (特級 2,316)	☆☆ (光重E T) ☆ (第五波丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 田 上 勝
育高 274	ほまれ六	90	菊重川 (特級 62)	ほまれ五 (1級47,243)	A 4 (第三光丸) A 4 (光重E T) 84.0	熊本県阿蘇郡白水村 後 藤 義 文
育高 275	ひさつる	94	波 丸 (高 74)	しげつる三 (育高 197)	A 5 (第三光丸) A 5 (第三光丸) ☆ 86.0	熊本県阿蘇郡久木野村 今 村 秀 也

登録番号	名号	能力 得点	血 統		産子の産肉又は超音波 成績(交配種雄牛) 産子の中の最高得点	所 有 者
			父	母		
育高 276	ゆ き	92	重 隆 (特級 68)	たかこ (育高 30)	A4 (波 丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県上益城郡甲佐町 森 口 政 人
育高 277	第六ひめ	92	第三光丸 (高 71)	第三ひめまる (1級43,889)	A4 (波 丸) A4 (波 丸) 85.0	熊本県菊池郡大津町 上 田 元 子
育高 278	は る	94	第一重川 (1級 517)	の り (高 5,259)	B4 (光重E T) ☆ (光重E T) 86.0	熊本県上益城郡清和村 本 田 憲 司
育高 279	はつしげ	92	第三重川 (高 61)	はついわ (1級36,801)	B4 (第三光丸) ☆ (光 誉) 86.0	熊本県下益城郡松橋町 浦 田 伸 介
育高 280	はつてる	92	第二光泉 (高 66)	てるかわ (特級 4,541)	A4 (波 丸) A4 (光重E T) 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 荒 牧 信 也
育高 281	やすはな	90	第二光泉 (高 66)	はなみ (高 3,710)	A5 (第十光丸) 86.9	熊本県阿蘇郡高森町 本 田 道 明
育高 282	第二はるか	91	第十重川 (高 65)	第六はる (高 3,683)	A4 (波 丸) A4 (第三光丸) ☆ 86.0	熊本県阿蘇郡高森町 甲 斐 隆
育高 283	いしかわ	91	波 丸 (高 74)	よしかわ (産肉 223)	A5 (光重E T) 85.0	熊本県阿蘇郡高森町 吉良山 一 昭
育高 284	ふじしげ	91	第十重川 (高 65)	ふじざくら (1級53,569)	A5 (光重E T) A4 (第二重光) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 工 藤 真 一
育高 285	ま る	94	第二初玉 (特級 31)	まるみや (1級52,445)	A4 (波 丸) ☆ (光重E T) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 松 岡 栄 記
育高 286	みつさくら	90	光 武 (高 58)	第三さくら (高 3,302)	☆ (第八光武) ☆ (光重E T) 86.0	熊本県阿蘇郡白水村 佐 藤 春 敏
育高 287	ふくたから	96	第二光丸 (特級 22)	ふさたから (1級50,499)	A4 (光 丸) ☆☆ (第十光丸) 87.0	熊本県阿蘇郡白水村 田 上 敏 清
育高 288	みつえい	91	光 武 (高 58)	まさみ (高 2,683)	A4 (波 丸) A4 (第二重波) 85.0	熊本県阿蘇郡白水村 田 上 昌 一
育高 289	くすなみ	94	波 丸 (高 74)	くすはな (1級81,158)	A4 (第三光丸) A4 (光重E T) 86.0	熊本県菊池郡大津町 藤 本 津 静 人
育高 290	さちこ	92	第十重川 (高 65)	まつよ (1級66,825)	A4 (光 福) ☆ (光 福) 85.0	熊本県菊池郡大津町 宮 前 公 俊
育高 291	かつはる	92	光重E T (育高 1)	しげはる (1級83,224)	☆☆ (第四重波) 86.0	熊本県下益城郡砥用町 日 永 照 明
育高 292	たまこ	91	光重E T (育高 1)	にたま (産肉 232)	A5 (波 丸) ☆ (第二重波) 84.0	熊本県阿蘇郡白水村 甲 斐 孝 行
育高 293	ゆきなみ	95	波 丸 (高 74)	ゆきかぜ (産肉 113)	B5 (武光丸) ☆ (光重E T) 86.0	熊本県阿蘇郡久木野村 古 沢 博 幸
育高 294	まるさかえ	91	第十光丸 (高 76)	しげまる (1級65,780)	A5 (光重E T) 85.0	熊本県阿蘇郡長陽村 長 野 幸 雄
育高 295	はつなみ	90	第二重波 (特級 27)	みつなみ (特級 3,178)	☆☆ (第五玉波) 85.0	熊本県阿蘇郡阿蘇町 立 石 亀 八
育高 296	第一ひめふく	93	第九重宝 (1級 628)	ひめふく (高 3,121)	A4 (藤玉波) ☆☆ (第十光丸) 86.0	熊本県阿蘇郡産山村 山 部 英 治
育高 297	第三ひかり	90	重 雄 (特級 75)	みつまる (1級70,702)	A4 (重玉波) A4 (波 丸) 85.0	熊本県阿蘇郡一の宮町 江 藤 友 明
育高 298	みつひめ	95	球泉二 (特級 130)	さくらひめ (特級 1,831)	☆☆ (光重E T) 88.0	熊本県人吉市 牛 塚 政 秋
育高 299	きみこ	92	第十重川 (高 65)	第二きくえ (特級 572)	A5 (第三光丸) 86.3	熊本県上益城郡矢部町 阿 部 主 税
育高 300	まるひめ	90	玉 雄 (特級 97)	ま る (1級66,597)	A5 (波 丸) 83.0	熊本県阿蘇郡一の宮町 甲 斐 章 文

◎ あか牛子牛市況

(平成9年1月～12月)

単位：円、kg

道県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重
北	9. 1.	ホクレン 十 勝	めす 去勢	8	286,340	233,810	254,116	323
				13	362,560	284,280	329,917	328
	2.	十 勝	めす 去勢	8	288,400	183,340	238,574	329
				8	369,770	264,710	320,974	328
	3.	十 勝	めす 去勢	14	293,558	214,240	253,527	276
				11	385,220	299,730	328,851	278
	4.	十 勝	めす 去勢	12	292,950	215,250	249,270	329
				14	362,250	235,200	291,375	327
	5.	十 勝	めす 去勢	21	278,250	196,350	235,550	322
				19	329,700	259,350	296,683	328
	6.	十 勝	めす 去勢	22	285,600	189,000	242,600	327
				8	346,500	303,450	316,969	325
7.	十 勝	めす 去勢	11	266,700	175,350	229,110	324	
			15	323,400	210,000	284,775	326	
8.	十 勝	めす 去勢	10	271,950	206,850	247,800	320	
			8	343,350	262,500	302,750	328	
9.	十 勝	めす 去勢	11	236,250	106,050	206,617	319	
			15	280,350	134,400	236,950	331	
10.	十 勝	めす 去勢	16	249,900	215,250	230,738	321	
			23	273,000	190,050	243,327	330	
11.	十 勝	めす 去勢	17	292,950	77,700	235,528	331	
			10	303,450	97,650	254,100	329	
12.	十 勝	めす 去勢	16	280,350	214,200	246,900	326	
			14	313,950	260,400	284,925	318	
海 道	4.	道 南 (大野)	めす 去勢	76	263,000	178,000	229,342	285
				108	339,000	181,000	263,259	311
	6.	道 南	めす 去勢	66	326,000	124,000	221,076	295
				99	367,000	116,000	295,219	314
	9.	道 南	めす 去勢	63	323,000	170,000	254,555	287
				100	397,300	147,000	320,240	310
12.	道 南	めす 去勢	137	260,000	112,000	181,394	269	
			178	338,300	140,000	249,584	292	

道県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重
秋 田 県	9. 2. 24	山 本	めす 去勢	6 21	219,390 344,020	156,560 232,780	178,705 303,016	257 278
	25	北秋田	めす 去勢	51 68	253,290 369,770	122,570 159,650	230,901 290,914	296 323
	4. 24	北秋田	めす 去勢	40 43	331,800 442,050	75,000 132,200	252,578 351,262	292 321
	25	山 本	めす 去勢	15 31	345,450 406,350	204,750 190,050	291,550 354,223	284 297
	6. 25	北秋田 (合同)	めす 去勢	33 48	403,200 422,100	164,850 214,200	329,604 353,499	298 300
	8. 27	北秋田	めす 去勢	16 8	327,600 368,550	189,950 308,700	265,584 329,438	307 334
	28	山 本	めす 去勢	15 21	361,200 336,000	203,700 248,850	270,690 298,350	286 295
	10. 23	山 本 (合同)	めす 去勢	36 35	426,300 371,700	153,300 168,000	267,254 279,390	289 302
	12. 17	北秋田 (合同)	めす 去勢	43 54	389,550 348,600	120,750 111,300	232,074 277,161	277 284
長 崎 県	9. 2. 12	島 原	めす 去勢	30 46	366,680 367,710	193,600 222,480	255,035 300,447	298 315
	5. 12	島 原	めす 去勢	28 37	329,700 392,700	182,700 217,350	253,200 309,154	310 326
	7. 12	島 原	めす 去勢	38 31	375,900 369,600	208,950 238,350	291,762 318,150	304 321
	9. 12	島 原	めす 去勢	13 18	353,850 366,450	182,700 217,350	268,315 304,325	283 314
	11. 12	島 原	めす 去勢	29 47	322,350 409,500	194,250 231,000	254,785 323,773	287 322
	3. 6	対 馬	めす 去勢	38 41	351,230 384,190	107,120 206,000	259,614 305,533	279 291
	7. 6	対 馬	めす 去勢	41 43	305,550 387,450	210,000 165,900	264,216 332,142	284 310
	11. 6	対 馬	めす 去勢	34 48	368,550 378,000	133,350 189,000	228,097 320,031	258 292

道県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重
熊本	9. 1. 9 10	熊本県	めす 去勢	264 298	628,300 428,480	154,500 218,360	272,205 326,057	279 290
	19	球磨	めす 去勢	99 106	501,610 373,890	108,150 207,030	261,497 296,262	280 302
	2. 5	小国	めす 去勢	46 50	404,790 348,140	123,600 231,750	258,462 299,853	257 282
	6 7	熊本県	めす 去勢	267 313	530,450 455,260	124,630 156,560	262,997 324,786	279 291
	17 18	南阿蘇	めす 去勢	240 311	499,550 425,390	153,470 123,600	265,010 335,852	274 286
	3. 6 7	熊本県	めす 去勢	313 344	557,230 467,620	129,780 111,240	280,841 337,023	282 296
	19	球磨	めす 去勢	107 111	630,360 427,450	185,400 208,060	278,137 324,034	284 304
	4. 5	小国	めす 去勢	52 59	341,250 375,900	154,350 117,600	257,977 295,869	249 270
	10 11	熊本県	めす 去勢	274 327	542,850 447,300	153,300 229,950	293,406 345,379	287 305
	17 18	南阿蘇	めす 去勢	221 300	580,650 431,550	169,050 232,050	305,141 357,175	282 290
	5. 8 9	熊本県	めす 去勢	361 356	736,050 477,750	126,000 166,950	273,838 336,634	288 301
	19	球磨	めす 去勢	111 145	642,600 422,100	168,000 168,000	262,150 310,583	294 306
	6. 5	小国	めす 去勢	50 78	320,250 371,700	157,500 177,450	243,075 296,207	265 275
	12 13	熊本県	めす 去勢	330 321	530,250 442,050	180,600 223,650	285,676 346,762	292 307
	17 18	南阿蘇	めす 去勢	300 379	603,750 443,100	127,050 69,300	270,249 326,236	285 296
	7. 10 11	熊本県	めす 去勢	270 304	716,100 478,800	118,650 130,200	269,570 349,063	287 301
	19	球磨	めす 去勢	66 103	432,600 392,700	147,000 222,600	274,305 347,222	290 305

道県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重
熊本	8. 5	小 国	めす	52	333,900	126,000	245,215	275
			去勢	74	389,550	193,200	303,209	277
	7 8	熊本県	めす	255	552,300	150,150	280,185	284
			去勢	270	483,000	150,150	337,898	299
	17 18	南阿蘇	めす	259	657,300	85,050	268,508	275
			去勢	337	492,450	140,700	345,412	286
	9.11 12	熊本県	めす	248	646,800	194,250	298,628	280
			去勢	269	493,500	206,850	344,377	300
	19	球 磨	めす	69	447,000	200,000	290,501	279
			去勢	76	448,350	219,450	344,082	298
	10. 5	小 国	めす	65	381,150	222,600	289,073	276
			去勢	47	489,300	244,650	336,804	279
8 9	熊本県	めす	251	458,850	122,850	272,381	281	
		去勢	309	448,350	143,850	322,843	293	
17 18	南阿蘇	めす	263	495,600	141,750	269,666	282	
		去勢	327	467,250	48,300	328,608	292	
11. 6 7	熊本県	めす	236	872,550	137,550	288,310	280	
		去勢	300	460,950	155,400	337,120	291	
19	球 磨	めす	60	529,200	133,350	278,231	279	
		去勢	83	430,500	195,300	321,945	291	
12. 5	小 国	めす	52	319,200	153,300	232,576	257	
		去勢	64	373,800	124,950	276,328	264	
12 13	熊本県	めす	288	698,250	113,400	277,488	282	
		去勢	309	480,900	154,350	339,255	291	
17 18	南阿蘇	めす	275	521,850	129,150	264,878	284	
		去勢	303	430,500	154,350	327,551	286	

謹 賀 新 年

平成 1 0 年 元 旦

社団法人 日本あか牛登録協会

会 長	續 省 三				
副 会 長	岡 本 篤	成 田 廣 造			
常 務 理 事	黒肥地 一 郎				
理 事	木 原 竹 弘	吉 田 敏 雄	佐 藤 昌 明		
	高 田 倭 男	佐々木 富 雄	魚 住 汎 英		
	府 内 哲 熊	中 川 利 美	穴 見 盛 雄		
	源 孝 行	岳 野 勝			
代 表 監 事	太田黒 鐵 郎				
監 事	磯 川 宗 逸				

あか牛 第70号 (平成10年1月30日発行)

発行所 社団法人 日本あか牛登録協会
熊本市桜木6-3-54 畜産会館内
☎ 861-2101 TEL、FAX 096-365-7900

編集人 松川昭義

印刷所 株式会社トライ

熊本県鹿本郡植木町味取373-1 TEL 096-273-2580

